一冊六錢

各土曜日發兌

女學雜誌

第百九拾六號

當府內無郵稅

郵稅五厘

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 196. 18TH JANUARY. 1890.

EDITORIAL :—Adultery and Fornication.

LEADING ARTICLE :—On Reading "Sui-chin-ko."

CRITICAL NOTES :—"Ashi no hitofushi," Supplement of the January number of the "Woman Magazine," "Fūgashu."

MISCELLANEOUS :—Private Virtue of Prince Bismarck. A Minister of Treasury in a Family. Honor Paid to Literary Men. Different Kinds of Stoves. Golden rules of the late New York Mayor. Relation of a color of clothes to an expression of one's countenance. Importance of a School Physician. Love. Prosperity or Adversity? Life of William Wordsworth.

OPEN LETTERS :—Temperance lodging houses.

NOTES ON THE NEWEST ISSUES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

SINCE OUR LAST ISSUE.

第百九十六號目錄

社説　姦淫論

論説　醉沈香を讀む

批評　女學雑誌新年附錄「蘆の一ふし」〇明治風雅集

雜錄　ビスマーク公の私德〇家内の大藏大臣〇文人の遇不遇〇ストーブの良否〇紐育市長の金言〇着物の色合と雜色の關係〇學校醫の切要〇愛情論盛？衰？

小説　イナック、アーデン物語

寄書　殖産慈善家片岡龜壽の傳（尾崎濱之助）

開書　禁酒下宿〇廢娼會〇天保親父さん〇神田、麹町、芝、麻布、築地〇交詢

雜錄　女學者と政黨〇女學的政黨〇黨派哲解〇日本軍樂譜〇櫻樹森々鳥空啼〇三大不思儀〇年始狀を返却す〇覧妓政黨員を招く〇讀賣新聞の女史〇女子と速記〇小學校令〇兩本願寺の收入〇元結、元に歸へる〇酒造減ず〇廢娼記事〇廢娼論料

女報　高等女學校〇音樂會〇レース教場〇女子職業學校〇婦人教會〇女子手藝學校〇豊田女史根本正氏〇女官面會日〇珍き婚姻〇つぼみ〇貴夫人面接日

WOMEN IN JAPAN.

(1) *In the town of Nagasaki, there are three Christian Girl's Schools; namely, Kassui Jo-Gakko, Ateldis' Jo-Gakko, Goodel Gimi's Jo-Gakko. Besides these, there are the Normal School for Girls, Shibata Ei-Gakko, and two or three other schools where English and general branches of education are taught to the girls. The Nagasaki Temperance Association was established according to the exhortation of Mrs. Leavitt when she was there. The members of this Association mostly consist of Christian ladies. They have a monthly lecture on Temperance subjects.*

(2) *The members of the Yokohama Young Men Christian Association held a general meeting last month in the building of the Kaigan Church, and passed many important resolutions, concerning the abolition of licensed prostitution, to be carried into practise early this year.*

(3) *Mrs. Yajima, the former President of the Tokyo Women's Temperance Association was again elected President at the general meeting of the Association. But she had resigned the office notwithstanding the earnest entreaty of the members; the reason being that she was yet too feeble to accept it. They will call another general meeting soon.*

(4) *A Christian Journal called the Standard has just made its appearance. Rev. Mr. M. Hoshino is the editor, assisted by his sister and some other ladies. We heartily welcome a journal like this.*

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ビスマーク公肖像

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

女學雜誌　第百九十六號　明治二十三年一月十八日發兌

社說

○姦淫論（上）

特に有夫姦を惡むは舊習の遺れるあり

廢娼論の適否を定むる要樞は、姦淫と云ふとの正邪利害を明らかにするにあり。

今の人往々姦淫の何事にてあるかを辨ぜず、偶たま之を辨ずるも其の何に由りて不正なるやを悟らず、幸ひにして之を悟るも何を以て其の公私國家に大ひなる害あるやを知らず、漠然として姦淫と云ひ、漫然として正しからずと云ひ、遂に其害毒の極めて恐るべきあるを感ぜず、於此乎廢娼論に加擔するもの多からず、よし之に加擔するとも直ちに斷行せんとするの勇甚だ乏し、悲しきとにあらずや。

抑そも姦淫とは何事の謂ひぞ、俗人答へて云ふ、夫あるの妻他に通ずるの義ありと、昔しは之を手打にし、今は之を嚴刑に處す。然らば吾人之に問はん、妻あるの夫他に通ずるは如何んと、俗人亦答へて云ふ、此は構ふ所ろにあらずと。然らば吾人更に之を問はん、未だ嫁せざるの女子、未だ娶らざるの男子相通ずるときは如何ん、俗人同じく答へて云ふ、此は私通なり未だ必らずしも姦通にあらず、よし之を姦通とするも有夫姦の一層罪重きに比ぶべくもあらず、有夫の姦は即はち罪の尤も重く情の至つて惡むべきものなりと、吾人云く嗚呼然るか、左らば終に於て更に一つを問はん、抑そも夫あるの妻に於ては通ずると如此く惡しく、妻あるの夫に於ては通ずると如此く易しと、其の罪に輕重あるは果して何んに由りて然る乎、俗先生の解答に云く、女子は貞節を重しとす、婦人は異性を產むとを許さずと。此に於てか女子は何によりて男子よりも多く貞節を要する乎、男子は何によりて女子と同じきの貞節を要せざる乎、と問ひ又更に有夫の妻異性を孕むを惡しとせば、有妻の夫他に異性の子を孕ますは何故に惡しからざるや、異性の子は素と私生兒に同じ異性の子を孕むが爲に不德ありと云はゞ私生の兒を孕むとは何故に同一の不德にあらざるか而して有夫姦を以て私通より罪重しとするは抑そも何に由るかと問ふに、如此き問に對つては何人も答ふる所ろあるなし。

吾人は同じく有夫の姦を惡むものなり、其の之を惡むの情に於ては蓋し何人にも劣る所なけん、然れども吾人は敢て有夫

姦をのみ惡むものにあらずして總べての姦淫を惡み、姦淫とは單に有夫の姦にのみ限らずして大凡そ男女の間だに濟からざるの交わりを爲すものを總じて悉とく姦淫なりとし惡くみ認たむるものあり、之を以て敢て世人に倣ひ唯り有夫姦をのみ惡しゝとするとあたわず、寧しろ此の有夫姦をのみ姦淫ありとするの俗見を惡しゝとし、如此き謬見を以て蠻民の遺習、未開化の明徴、大不道德の根本とはなす也、世人はたゞ今の有夫姦のみを惡むか、吾人は寧ろ世人が只だ此をのみ惡むとを惡む、姦淫なんぞ必らず有夫姦のみならんや、之を有夫姦のみなりとするは即ち既に大ひなる姦淫の語あり。

君主が百姓を壓制し、貴族が平民を壓制し、主人が奴隷を壓制するは、皆な同根の病ひなり、彼等が如此く其下にあるものを壓制するは彼の男子が女子を壓制するの壓制に均しく、すべて皆な弱を痛め貧を虐たげて其の權を擅ひまゝにするの劣情より來れり、此を以て万國何の處ろの男子も初めより女子を視て其臣下とし奴隷とし器械としたり、彼等間ま之を愛せざるにあらず、左れど其の之を愛するは器物什器を愛し、奴隷臣下を惜しみ慈くしむの愛に異なるとなし、故に其の之を愛するといよ〳〵深ければ之を我財產と思ひ我が物と思ふの慾情いよ〳〵增長し、則ち之を我れ獨り取締り隨意氣儘、に取扱わんとするの我慾ます〳〵固結するなり、君主貴族が其の平民臣下を束縛するの情及び主人が奴隷を賣買苦使して之を專制するの情皆な如此くにして起り、如此にして增長し、如此にして固結したり、蓋し男子が女子に對するの慾情亦た之に均し。　昔しは男子或る女を共有物としたり、后ち事情出で來て之を己が一個の私有となし、若くは敵地外隣を侵して其の女子を奪ひ來り勞功の報ひとして之が所有權を得たり、此に於てか此の女子を八重垣の內に閉ぢ籠め、又は閨門內に固く鎖ざし、若くは之が面を覆わせ頭らを隱さしめて、旨と他人等の爲めに奪われざるやう、見られざるやうにしたり、之を以て女子の爲めには其面てを人に見するとすら彼女の不德となれり、況して人と面接するとよし面接するも良人居まさゞる時に於て人に面接すると、他人をして己がハダに觸れしむると、及び輕々しく出步きするとに至りては、皆な彼女の爲めに大ひなる不德となれり、而して世何故に之を不德とするかと問はゞ、總べて此れ妻は其良人の私有物たり、財產たり、寶ら物たるによる、他人之に指をさすは泥棒の不埒に似、恰かも人の身代に手を着くるに同なじと云ふ、

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

此を以て有夫の妻はたゞ其良人によりて自由に管理支配せらるゝのものたり、良人の外何人と云へども之に觸るゝ可らず指をさす可らず、語ばを交す可らずと云ふの道德を生じぬ。左れば彼の憫れむべき一器具たる婦女子が單に其持主の意思のまゝに束縛せらるべしと云ふこと從來の女德となり、斯くして成るべく謙遜に束縛せらるゝを以て女子の貞節としたり、故に貞節の語はひとり女子にのみ拘はりて男子にあることなし從前の貞節と云ふものは實は自由に壓制せらるゝとのことを表章したる女德にして、元と左程に美なる賞むべきの操なるにあらず、今俗の有夫姦を惡むの情に至りても亦た之に同じきものなり、世人は妻を我物と思ふの習慣に熟せり、左れば我物を侵し、我物の外に通するは以ての外の邪しまなりとして、恰かも臣下が二君に仕へ、家來が他節に移りたる如くに感じ、則はち之をあるまじきの不道德なりとしたり。故に今の有夫姦を惡むの情は多くは蠻民の遺習に出づ、特に有夫姦をのみ單に惡むの情に至りては全く蠻民の劣慾より遺傳し來ると云はずはある可らず、現に或る地方に至れば、一村の娘は其村若い者の共有物とし、若い者は之が嫁入婚姻に對して一種の權利を持つの所ろあり、如此き女子にして若し他に嫁するときは先づ此の若い者の承知を受けざる可らず、若し其承諾を經ずして他村に出れば、村青年は之を無上の大不埒として重き刑罰を與ふるなり、鳴呼之れ昔日女子を共有財產としたるの遺風に出でゝ、而して女子の有夫姦をのみ特に罰するの習慣は亦た此遺風より來れるなり、有夫姦を惡むの情何を以て高尚ならん、之れ寧しろ男子の我儘にして其の意思の鄙野なるより來れり、彼のたゞ之を惡みて女子に貞あれよと云ふは吾れ昔しの儘に蠻民たらん汝ち須からく之に屈すべしと云ふに均し、如此く言ふの人、如此く制するの法律、抑も何によりてか興れるならん、左ればもし有夫姦をのみ惡まば、吾人は其世の尙ほ蠻俗を去る遠からざるを認たむ、人もし有夫姦をのみ責めば、吾人は其人の尙ほ純潔高尙の德を知らざることを認たむ、今の日本國に果して然るものなりとせば、吾人何んぞ浩歎に堪へん。

姦淫何すれぞ如此きものならんや、姦淫とは男女間の清からざる交際を云ふ、之によりて人一身の靈魂を殺し、家一家の善美を破り、國一國の元氣平和を傷つく、其の關はる所ろ公私國家の上にして、害毒を蒙むるもの大小上下に極めて多し、姦淫の事實よ恐るべき哉。

論説

○醉沈香を讀む

雲峯子

漢學の我國に渡來せしと共に漢詩の入來りし以來漢學が和語の發達を妨たげたると同時に漢詩も和歌の進歩を害せしなるべし何となれば和語と和歌とは密接の關係を有する事恰も漢詩の漢學に於けるが如ければなり然り而して其後日本語は漢語にも非ず和語にもあらぬ一種紛雜のものと變化し來りたれども和歌に至ては古より變はる事なし只夫れ變はる事なきが故に亦進歩もせず詠者は多く歌數は繁くとも皆三十一文字の短歌ならねば七五の句調を重ねたる長歌のみ出るも／＼古躰陳套の弊を免れず加ふるに純粹の和語のみを用ひざれば和歌となさゞりしなり爾來我國の文明は益々進歩し人民の思想愈々緻密なるに至ると雖も和語は依然古の如し否却て退歩せし所多かる可し此不完全なる和語のみを以て歌を作さんとす知る可し今日迄在り來りたる和歌の不完全にして文明開化の今日に於ては思想を發揮するの器たる能はざる事を加之日本語は古より非常の大變化を爲したるを以てたとへ絶妙の和歌を讀むとも到底今日の人民中和學を修めたる人の外は解得するもの少かるべし若亦漢語にまれ俗語にまれ洋語（例之ばヲソプ或はガラスと云ふ類）にまれ自由自在に用ひんとすれば七五の定り文句なるが故に直ちに調子を害なふに至る可し歌人は云ふ太平記にある「落花の雪に踏迷ふ……」と云ふ如く用ひなば漢語を用ゆるも差支へなしと、然れども實際之を用ゆれば則ち曰く是は調子宜からず彼は不都合なりと、漢語にして猶且然り況んや俗語洋語に於てをや一も二もなく直ちに抹却し去らんのみ是實に歌人の偏癖ある弊害と云ふと雖も古躰の和歌を用ゆる間は是非なく歌人の云ふ所を守らざる可からず是實に和歌の究屈なる所以、今日世に博く用ひられざる所以にして亦新躰詩の發明を要する所以ならんか。

漢詩は昔よりあれども是亦讀易すからざるが故に深く漢學に通ずる者若くは專ら詩を研究する者にあらざれば了解する能はず故に古來詩を解し得る者は我國人中甚だ少數なる可し是漢詩は我國の詩として博く行はれしむる能はざる所以にして必らず新躰の起らざる可からざる所以なり。

新躰詩の我國に必要なる既に業に斯の如し是人も余も共に其起らん事を熱望する所以なり囘顧すれば數年前の事なりき「新躰詩」なる名稱を以て世に顯はれたる長歌躰の者ありき其詩を見れば只其句調如何を顧ず猥に漢語を挿入せしのみにて

依然たる古風の七五體なり其不調子なる事言語に堪へず是決して我國將來の詩體となすべきものに非ずとは夙に世人の唱導したる所なり既に彼取る可からずとせば亦更に新體を建設せざる可からず然れども詩歌には、

句調　なかる可からず將來起るべき新體を詩と云ふとも歌と呼ぶとも必らず整然たる句調なかる可からず蓋し其句調なるものは大よ國語と密接なる關係を有するが如し例之ば我國語の如きは七五若くは五七の句調に適合するを見る故に三十一文字の和歌に至ては五七五七七の五句より成り長歌なるも亦七五の二句を繰返すに過ぎず啻に和歌のみならず「一聲は月が啼たかほとゝぎす」と云ふが如く發句に於ても亦五七五の三句より成る「沖の暗いのに白帆が見ゆる、あれは紀の國蜜柑船」と云ふが如く都々逸すら猶七七七五の四句を以て成る其他端謠と云ひ琴の歌と云ひ謠文と云ひ淨瑠理と云ひ皆五字と七字の二句を上下し重複したるものならざるはなし紀の貫之の著せる土佐日記には船頭の言語が自ら三十一文字の歌を成せりと云へり是を以て觀れば我國語は自然に五と七の句調に適合するものと云ふも可ならんか然れども我國語に適合する句調は必ずしも此五と七とのみならざる可し思ふに他に適當なるものを創設する人なきが故に只古風に泥み舊體に據るのみ若一朝絶世の大家輩出し我國語に適當なる新體を發明するならば則ち我國の詩體とならん嗚呼此大家たる人は果して誰ぞや。

眞誠の詩　人或は曰く詩は精神を主となす苟も精神あらば句調の如きは自ら整はんと余所謂く然らず精神素より貴ぶべしと雖も句調亦忽にすべからず試に思へ春風暖かなるの時烟霞渺茫の間に遠山に咲滿つる櫻花を望まば誰か心中美妙の感情を起さゞらん其感情たるや即ち歌の精神たるなり然れども何人も皆之を一首の歌となして「吉野山霞の奥は知らねども見ゆる限は櫻なりけり」と顯はし得るに非る可し亦春暖漸く明けんとするに當り早く家を出で放吟朗詠馥郁たる梅園を步する時は如何なる無風雅の人と云へども多少の感情あらん此感情たるや即ち詩の精神と云ふべきものなり然れども之を一絶となして「月落林頭曉色蒼、閑園敲句弄春光、微吟唯恐驚鶯夢、故向梅花疎處行」と云ふに至つては其感情其精神を發輝する處の語句格調を知る所の人に非れば能はず苟も智情意を有する人間ならんには必らず美を見て美を感じ醜を見ば醜と思ふ可し是故に何人も詩歌の基礎たる所の精神を有せ

ざるはあし其精神の點に於ては天下何人か詩人あらざらん歌客たらざらん只其詩人歌客たる能はざる所以のものは其精神を發輝する器即ち語句格調を知らざるが故のみ然れば如何に精神ありとも此語句格調を欠かば詩歌とならず亦精神があれば格調は自ら整ふと云ふ可からず何となれば若自ら整ふと云はゞ天下萬民悉く詩人歌客なる可ければなり要之語句格調は詩歌に於て最も必要あるものにして決して輕忽に看過すべからず其精神素より重んずべし然れど語調も亦輕ず可からず故に曰く其孰れを輕しとなし孰れを重しとなす能はず兩者相待て始めて眞誠の詩たり歌たるなりと。

國語と詩　一國の言語と詩とは必らず密接の關係ありて若其國語に適合する詩ならんには其國人の之を讀むに當り自ら圓滑に調子よく讀下し得べし若語句整はず之を讀むに於て澁滯を感ずるが如きは決して其國語に適する詩と云ふ可からずサムエル、ジヨンソン嘗てシエークスピーアの著作を評するに當り云へる言あり曰く、

余は信ず各國民の内に必らず其國民に適する所の躰裁ありて其語句格調自然に其國語に恰當するものありて存するを若余が信ずる處にして大過なくば此躰裁こそ一般人民即ち國語に通ずる處の人民が平居日常尋ね求むる處の躰裁あれ是實に人民が其躰裁の高絶あらん事を欲して求むるものに非ずして知らず〳〵其言語に投合するものあり………と

實に此言の如く苟も人民集て國を爲し一國特有の言語を有する以上は必らず此に適合する處の躰裁なくんばあらず如何なる詩と云へども素より其作者に於ては其讀方に於ても句調に於ても多少の意見ありて之を明白に説明せば或は幾分か讀者をして語句澁滯の感を減ぜしむるならん然れど古來如何なる詩人と云へども其詩の讀方を説明せしと云ふを聞かず若之を説明せざれば世人に讀み易からずと云はゞ詩の語調の變はる毎に説明せざる可からず是豈自然の詩ならんや英語の所謂讃美歌若くは詠歌に至ては尋常の詩と異り之を謠ふには一々之に適當の譜を作り世人に其音曲を説明せざる可からずと雖ども詩に至ては即ち然らず何人が之を讀むも自然に調子よく讀み得る者に非れば不可なり是即ち國語に適合せる詩躰に非れば永く存する能はざる所以なり。

醉沈香　は歌？余之を知らず詩？余之を知らず兎に角一種の新躰詩と云ふ可し余嘗て○都に在の際美妙君の「エピック」の作ありと風の便りに聞き附來鶴首して其世に出るを待つ事此

處に半年餘、今日にして思へば此醉沈香こそ即はち彼の所謂「エピック」ならめ余は是を待ち望みし事切なるが故に之を讀むにも尋常一般の著作に對すると異なりて大に意を注ぎ心を止めて讀返す事數遍、大に感服せり然れども詩躰即ち其句調に就ては聊か不平を鳴らさゝるを得ず何となれば余は如何にしても此醉沈香の句調が我國語に適合し知らず〳〵調子よく讀過する能はざればなり其編末に君がものせられたるが如く君は此新躰詩に就き御意見のあるわらん然れど若之を詩若くは歌と云ふに至ては君の說明を待たずして其調子は我國語に適せざる可からず其韻をふむと云ふも畢竟其句調を整ふる爲めなる可し然れば若句調澁滯して讀易からずば韻をふむといふとも何の益かあらん君が慨せられたるが如く今日は散文のみ世に繁くして韻文は甚だ稀なると余も甚たく喜ぶべき事に非ずと思ふ然れど韻文の行はれざる所以は世人が之を見るの識なきによるか抑亦作者其人なきが故に眞誠の詩躰未だ起らざるによるか嗚呼時未だ到らざるが故に天其人を下さゝるか余は一日も早く眞誠の新躰詩の起ちん事を希望するものなり。

然れども斯る新躰詩は一朝一夕に作爲し得べきものに非るべく幾千百の著作の出でたる後に非れば決して望む可からず嘗て聞くシエークスピーア翁の著作は遠くホーマーの詩に基くとかニユウトンの引力の理を發明せるはシエークスピーアの著作に依る處ありしと斯の如く古今の事物或は因となり或は果となり相依り相助けて眞理をあらはし名作を出すものなれば余は如何なる詩躰と雖も續々世に顯はれん事を望むものなり何となれば今日に於ては世に容れられざる處の著作と云へども後來亦如何なる詩躰を胚胎せしむるや知る可からざればなり要之に余は醉沈香なるものを讀みて其詩躰には感服せずと雖も將來に於ては如何なる好果を結ぶの種となるやも知る可からずと思へば我國將來の文學の爲めに之を慶賀するものなり願くは今後斯る種類の詩續々として多く世に出んことを。

批評

○女學雜誌新年附錄「蘆の一ふし」　天牢四民

海と月とは相俟て美を完ふす。小說は文學海の月、女小說家は其光りの發揮者たらん事を、吾人は望めり。曾て、詩賦の空らに澄へ渡る月の光り、歌詠の水に落射して、瀲灧黄金の波を漾はし、批評家の筆をして又爲めに忙はしからしめたる

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

藪の鶯の著者花圃女史、當時に於て已に世の小説狂―其の一患者たる囚民までーが、後著に鶴の首を翹だてつゝありしあるが、前號の附錄に載せられたる蘆の一ふし、鶯兒の藪を出でゝ南枝の木傳り、恰好春信第一聲……、讀者の感情即ち然らん。

女史は、卓犖なる批評家ならばまだしも、狗名誰れ知らぬ囚民の筆にかゝるは、殘念至極とや思し召さん?、されど人異なれば見る處ろも異なり、且つ囚民は己れの嗜好に合はざるが爲めに、大嫌ひありと筆殺し去るが如き、慘酷なる―即はち人身攻撃的の貔豹家にも、又己れを知らずして猥りに喋々する―即はち世間多々の屁飄家にも、非らずと信じ　御相談仕る丈けが、女史への御年玉。さて蘆の一ふしは中流社會の世話物語、短篇の哀歎小説、推して考ふれば禁酒雜誌日の丸に掲げたひが女史の精神かも……、兎に角藪の鶯に比すれば黨等の傑作ならん。大體より云へば發端と結局と中心の三よりなる、されど奔流岩に激して玉を碎き球を飛ばすの奇觀、直寫千瀉の瀑布澎湃雷を中空に轟かし煙霧の幕を半天に張るの光景を寫して、讀者の感情を最も弄せしむべき、中心に於ては惜ひ哉もの足らぬやう覺ゆれども、湛々たる湖水潺湲たる溪澗の發端と、百川の流れ千谷の水一瀉し去て渺茫たる一望の江海となる終局とは、御腕前の程感服の外なし。文章は絢爛瑰麗なるにもあらず、淋暢宕瞻あるにもあらず、稍や、「チャールス、ラム」氏の瀟洒を擬し、春廼舍主人の精緻を學べり。

本篇の主人公は森本新一とお靜、從は保。趣向は嶄新なるにもあらねど、奇突に起して悠々に結ぶの筆、就中新一とお靜の媒妁者の姓を橋渡とせられたる用意最とも嬉しゝ。初行‖あたりは更けて森々としたる霜夜‖、何となく、松杉の嵐に泣く山の麓か、枯草の風に悲しむ野の邊りかと思はる、併し軒を連ねたる町家にあらずとならば夫れ迄。七八九行お靜の形容の　結髮と年紀とに差異はあれど、宛然花蹊女史が春娘の閨の面影。‖色はすき通るやうに白く云々‖、すき通ると白いとは別、(すき通るほどの きれいさ)、とてもせられては如何。‖ガラスに水八分目程‖、はなか〱注意の至れる處ろ、されどガラスよりは(コップ)の方が穩當かと存ずる。‖手馴れたる事とおぼしく各々順序とゝのひたり‖、精細別に佳味あり。‖出づるともなく出づる涙‖、即はち父を思ふ孝順の涙第一。是れより以下九行父子の衷情―夫たり父たり

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

の酒を嗜むを憂慮し、共〳〵に自分の航僻ある身の上を嘆ずるの衷情を寫出し、中に結婚と非職即ち哀と歡との二伏線を布く、‖一本つけろ、バカメ‖心灰意懶ヤケが押し出す、哇音一發、讀者も胸を打たれて、堪へずアッ。

將士の主人公。父の禁酒。酒不可飲。「中」の一章は全然禁酒的小說の真面目、但し觀るが匕が目か?。橋渡とお靜が父との對話は、新一が人とありを知らしむる省筆なれども、常套を脫せざるは遺憾なり。‖瞼にあまる露をたゝへながら‖義俠に感ずる喜悅の涙第二、併しあまるの三字は贅?。‖あの局長も、君のきめつけたのはむりはない、出がい、許で、學問といつたら皆無だ‖、門閥採用の弊をあらして無學無能を痛罵す、一何當路者の砭鍼。‖これからは、太とく短かく‖、は‖可成ひかへめに、細そく長がく‖、に對を需むるもの。‖お靜は最前から起ちつ居つ、障子の外とでもてあましたる、一杯の水云々‖橋渡の懇惻なるに感ずるお靜が心ろ、半唱半囁にも口には言ひかね、加倍の酬謝は一杯の水、もの冷やかなれど熱き款待、十分の羞怯、膝瀾の戰なき、眉花眼笑の態に至るまで、アリ〳〵と眼の前に……、ア、お靜が此一瞬時、柔腸千緒を亂せしあらん。

‖よこはまは、五港の一にしてと、………(中略)………この二種の涙わつめたりとも、見ゆめり‖、吾人坐ろに年少兒童たりし當時を想起せられて、感情轉た深し、讀者趣味を何外・に探れ。‖折〳〵保に涙ながら、何かいひきかする云々‖、低聲下氣の中、喉咽の頻りなるを聞く、別れを惜しむ名殘の涙第三。‖御親父の臨終にわつて‖一何突然、讀む者ア、……是れ嘆、ヲ、……是れ恫、(酒は害、果して!)、‖互に見合す顏、おもはずおとす一雫‖、なき父、往く夫、死生兩別の涙第四。吾人も已に胸膛の痛むあり、ましてや新一お靜……如何ならん心ろの中、摟抱、面湊、窺覗、(人目の關、ア、!)。‖甲板に力限り帽をふるは保、おだやかに白き半布ふるは新一‖、保は兒童なるが爲めに、叫喚して喉嚨を喊破せしならん、新一は少年なるが爲めに沈思して斷腸の苦みありしならん、筆鋒自在。‖あなたの船も進むともなく進み、おのがけふりの奥に……‖無情の中、極めて多情。無恨の中、極めて多恨。冒頭の車は結局の舟に對照し、彼れは歸り是れは往く、彼れは青山に長臥し是れは青雲を將來に期す、哀歡交〳〵ある人生の說明、微覈は細邃まる、若し北邙散士が小說家の責任を標準とせば、未だ……、されど年猶ほ若き女史

足下、勉めて怠り給はずば、名も高砂の浦風は、芳りを添へて傳へなん、多罪叩謝。

○明治風雅集第一號　　　雲の舍主人

本誌は麹町區飯田町風采社より發兌する所のものにして殆んど二百頁の大雜誌なり誌中記する所の項目亦頗分多し先づ始めに和歌二百有余首ありて之を四期及び雜題の五種に分てり次に誌叢と云ふを頌德、懷風、感遇、隱逸、詠史等の諸題に分ち三十余首を掲載せり次に碑文、記文、禮儀式啟言、忠孝確言、傳記、行狀、祝文、教育、史料等の諸項ありて中に往々見る可きもの多し。

其和歌は秀詠と思しきものを稍多からざるが如し詩に至ては和歌に比して大に優る所あるを見る、殊に一首毎に注釋を附し大沼枕山氏の批評を加へたれば大に讀者を裨補する所あらんか其他の諸文章に至つても亦大に見る可きものあり頌德及び忠孝確言の二項の如き最も面白きが如し。

近來我國の文學愈盛なるに從て之に關する書籍及び新聞雜誌の出る事甚だ多し然れども公平無私眞實我國の文學の爲めにせんと欲するものは晨星も啻ならず多くは己の主義を擴張せんとし其自說を傳播せんと欲するものゝみ本誌の如きも亦此弊を脫せざるが如し今試に其記載の項目を見よ皆和漢の事柄のみにて其頑然國粹を保存し西洋の事物の如きは悉く之を放拋せんとするは一讀して瞭然たり其「教育」の項中「道德の教育を論ず」と云ふ一文の如き其例證と云ふ可し文中西洋主義の道德を排する旨に曰く、

(上畧)今西洋主義の道德を觀るに概ね一時の權謀に出で或は時勢の姑息を彌縫するに過ぎず故に彼れ學者の道德主義を講ずる者は但各一家私見に任じ或は時勢に阿り或は執拗に陷り以て世を欺き民を誣ゆるを蓋十に八九云々

と亦加藤博士が我國の道德は宗教に依て維持せざる可からずと云ふや亦之を難じて曰く、

此說たる一理なきに非ずと雖も非常に危險なる德育と云はざる可からず若此法に依る時は現に予が蛇蝎視する所の耶蘇教の如きも公然德育の部類に加へざるを得ず是最も恐る可きことにして抑亦國際教育の上に抵觸するや明かなり、

と、余は今此說の是非を問はんと欲するものに非ず只本誌の性質を見るの一證となさんとするのみ素より此一文に依て本誌の性質となすは或は當らざるものあらん然れども他に本誌發兌の主意も見えざれば余は其誌中に掲載する事項につきて其主義性質を判じ去らざるを得ず依之見れば本誌も亦頑固なる國粹保存主義に據て成るものと云ふも大過なかるべき可きか其和歌の詠者に從び正等の位を記するが如きは古來の歌書にある所の風なれども余は之れを今日に保存するの必要を見ず何となれば歌の巧拙秀愚は人の位階と關係なければなり若秀詠ならんかたとへ乞食非人の歌と雖ども尙見るべき價値あり之に反し若拙作ならんか王公貴人の詠と云へども之を棄てざる可からず然るに本誌は其た貴族的にして詠者多くは高貴の人を撰ぶが如し且其價の高價なるが故に容易に入社するを得ず一且つ補翼及び贊成員に非れば配布せず」との斷りあるを見れば到底廣く世に配布するの希望に非る可し余は希ふ其價を一層低くなし(冊は小くなるとも)之を公賣し博く世教人心を裨益せられん事を今本誌の發兌あるを喜ぶと共に敢て余が希望を陳ぶると爾云。

雜錄

○ビスマーク公の私德

みどり

鬱々たる喬木は何如にも物すごく見ゆ、左れど近づきて靜かに其狀を窺へば、鳥は最と安らけく眠りて吟ずるなり、峨々たる巖は何如にもすさまじく見ゆ、左れど近づきて之れを見れば蘭は葉を伸し花咲ひて馥郁として香ふなり、古今の豪傑を見る亦た如此し、遠く望めば毅然として恐るべく勇ましけれど、接して其心腹に入れば温容藹然として慕ふべきもの澤々たり。

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ルーテルが法王の赦罪劵を引裂きて火中に投ずるとき、其狀如何に猛けきや、左れど其夫人ケテー及び多くの子供等と一室に團欒し、自ら樂を奏して和樂するの躰を見れば其様何如に優しき。ミルトンが筆を揮つて强國の詰難に答へ、貧にして孤存し能く帝王の威權に敵したるときは、其風釆の何如に凛烈なりしや、左れど目しい屋傾むき産洗ふが如きとき愛嬢と共に日向に出でゝ顔色和焉微笑しつゝ何を授くるの狀を見れば何んぞ其の優にして温々たるや。偉人豪傑の内面は常に如此し。

ビスマーク公も亦た然り、人公を稱して鐵血宰相と云ふ、實に其表てに發表する所ろをのみ見ば或は鐵と血のみにてあらん、左れど飜つて公の内面を窺へば、其鐵は劍の鐵にあらずして極めて信仰堅固なるの黒金にてあり、其血は人を殺すの慘血にあらずして人に泣き人を愛するの多血にてあるとを見るべし。

公の第一に愛するものは日耳曼國にして之に劣らぬは其帝室なるべし、左れど此等のものにも劣らず公が最とも愛して措かざるは、其夫人と、其子と、山林と、音樂と、宗教とにてあるべし。

公の夫人は勤儉貞節にして、音樂に長じ文學に達するの傍はら、能く家政を修め、看病療治の術にも心得深く、特に良人ビスマーク公の政事に内助して公が決斷を助くる所ろ極めて多し、左れば公は毎度其心事を打明けて之に相談し、若し他出とて遠く離るゝときは細かに其存じ寄りを知らせて夫人の考を聞くと多し。公のペテルホッフにあるや遥かに香ひ草を寄せ、ゴッスシエンにあるや面白き新書を寄せ、アッフエンにあるや中夜古郷を思ふて感うたゝ禁じがたく一紙に「お休み」の書を認めて且つ夫人が疇昔音樂を奏したるの音を思ひ出すと書送り、婚姻年期の祝日來れば昔し獨居の時の冷淡なりしを思ひ出でゝ室家の樂しきを喜ぶなり。

公に一女二子なり、メレー嬢はラントザウ伯爵に嫁し、長子ヘルバートは主も外交官となり、次子ウイリアムは好みて法學に從事せり、父子職いそがわしくして相見る稀れなりと云へど、二子が住宅は元と公の家に近くしつらへ、若し暇まあるときは必らず父の膝下に行て敬を乞ふと云へり。

公は甚たく自然の風景を愛し、尤も好む所ろは森林原野海邊の景色にてあるなり、自ら云く余は深く自然を愛し、又海を愛する戀人に於ける如しと、夏と秋とは必らずバルシン、フリ

ードリッヒシュルーへの別業に住ふ、共に其家の森林に近ければなり、嘗て其姉妹に與ふるの書に云へらく、

私はいつも〳〵家をのみ慕ひ居り候、吾が國と、森と、愛する所の妻と、子供等とを思ふの外餘念無之候。

普佛戰爭の際み、公は恰かも怒れる獅子の如くなりき、左れど其間だも公は常に自然を愛することを止めず、頻りに閑地に退きて靜かに樂しむとの慕はしきを言へり、今日公すでに老ゆると云へど、身健やかにして外出し得べき折節には、天氣晴朗の日として近邊なる杉ブナの森又は小山流れ等に逍遥散歩せずと云ふとなし、食后暇まあれば「乞ふ彼の山巓に登りて四方を望み見ん」と申出ると屢ばなり、又パルシン公園内にある美しき木にして公の爲に其名を知られぬもの殆んどあるなしと云ひ、夜も晝も此公園の風景を思ひ、千軍万馬の中にあるときも倘ほ其圖を傍はらに携へ行けりと云ふ。

公は亦た宗教の念甚だ厚く、敬虔にして上帝を畏ると深し、其の初めて政事社會に出るや、「改革破壊の暴風を防ぐには基督教を以て最良の障壁とす」と云へる信仰固く、時弊を救ふには此信仰に據らずば能はずと決心したるなり、爾來公を慰さむるものは夫人の外か唯だ一の上帝あるのみ、之によりて勇を得、安きを得、智ときを得、公の毅然として自信自任の深きを得るは一に此の信仰あるに由る。

公は亦た音樂を愛し、詩吟を聽くとを愛す、此は元とベルリンに於て學生たりしときカイセルリンと交はりて其感化を蒙むりしにも由れど一つには亦た其天性の美妙を愛する切なるに由る、而して公が尤も愛するはベツーベンの曲なり、嘗て其夫人に送れる書中に、

丈夫にて樂しみ暮し居候へ共、家の慕はしきと、森、湖、草地、足下及び子供等、夕日かげ、ベツーベンなどの慕はしきとに由りて、何にとなく哀れになり氣鬱し候。

とあり。

嗚呼此等は即はちビスマーク公の内面なり、今の公が外面に傚はんとするものは、亦宜しく此内面をも學ぶべし。

○家内の大藏大臣

井上二郎

福澤翁が知人に向つて毎度言われる相です、若し自分の家の臺所元丈けでも能く整へて呉れる人があれば、政府へ二百五十圓の月給でお世話をしやうと。　具に至當な言葉で、一軒の家を能く治めるのも、天下を治めるのも同じ道理で、大小の差ひこそあれ頗ぶる似たものです、若いうちは政治と云ふ

ものは丸で別の事だと思ふて居るのですが、段々分つて來ると政治も亦た一家の治め方と同様のもので、至極淡泊卑近なものと分るです。夫故、一家の經濟を持つ奥様方は、恰かも國の大藏大臣の見識で、深く自信して其仕事を樂しまねばなりません、出入の勘定、買物の工夫、用費の儉約、日々のお菜の考へ、薪炭の使ひ方、時間の定め方など皆な深き思案を要するものであつて、決して輕々しくすべきものでないです

○　一家の小き經濟でも儉約に由て大なる徳が出ます、又万事を快ちよく整ふるときは之が爲めに主人は勵まされて其の外に出て丶働らく勇氣も十倍になります。主人が外に踏て仕事を立派に成し遂げるには、細君の助けも、お三の助けも加はつて居るので、若し漢の高祖が天下を取つた時蕭何の功らか第一であつたとすれば、此等の家にある婦人方の勳しも亦實に莫大のものです。○　靜かに家に於て内事を整ふるの無名英雄よ、深く信じ默かに甘んじ自ら足れりとして能く其任を盡し玉へかし。

○ストーブの事　　社の小僧

煖室爐の焚方又は取扱ひ方は第一に空氣の流通をよく氣附るのですストーブの中によく空氣の通よわないのは燃が惡く部屋へ空氣の新しひのが來ぬと呼吸に害があり身のためになりません第二はストーブの戸扉又は漏氣板などによく氣を付けないといけません惡い瓦斯などが飛び出す時は頭痛などがして大層身に害を受けます第三にストーブは成る丈け内側を石灰か又は温度の傳る事が極く遲い石などでかこみ置く方がよいようです第四に薪は可成よく燃えて煙の少ないもので早く温度を高めるものを選ぶのです第五には鐵板が赤くなる迄でなくそうかと申して四方の冷い空氣が觸る事の遲いようでも困りますが丁度ろの間がよろしひのですソシテ煖爐が一部分のみ煖まるような事なく全躰が煖かくなり四方に萬遍なく空氣が觸れて煖まるようにするノデス、大なストーブは温度が適宜に四方へ廻る時は最も快いものです總てストーブはストーブが煖いと思へば間違です部屋の空氣が暖くなればよいのですから私共はストーブで身を暖めるのでなく暖い空氣で身をあたゝめるのだと思はねばなりません空氣の温度如何とその空氣の善惡によりて大層身躰の健康に關係があります、薪を多く用ゆると、眞赤に鐵の板を燒くのがストーブを用ゆる事の得手た者とは申せません、烟出しの事も尋でに申しましやうが烟出しは餘り長くないのがよろしいので、また所々で

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

曲るのもいけません長いとその中へ水が多く溜りますこれは薪の中の水分が蒸發して長い烟出しを通る中に冷たくなつて水となるのです、これを直すには前の規則を仕方がなく破て時々出來る丈け強くストーブを焚て烈しい熱を送り出すノデスそれでもいけずば烟出しの中程へ穴を明けてその水を絞り取りその上で熱を出だせば大抵は元のようになりますそうして烟出しは太ひ方がよろしひようです。

○文人の遇不遇

高虎子

末代に傳はるべき傑作を物して一文にも價ちせざりし世に遇はぬ文人もあり或は數篇の名著よく巨萬の富を致せしもあり詩仙ウオルヅウオルスの初作は五百部を印刷して數年の間賣切れず版元は無代價にて版權を著者に返却せりと云ひシエークスピーア、ミルトン、の如き其傑作名什は唯數片の黄金を償せしに過ぎずその世に遇ふ者に至ッては實に驚くべき者ありサー、ウオーター、スコットはウエーバーレーを著して七百磅を得其後九年の間三卷讀切の小說十一種及「庄屋物語」（テールス、ヲフ、マイ、ランドロード）九卷を草し版元コンスタブルより十一万磅則ち我邦の通貨に直して凡そ六十万圓を得たり其死に先だッ八年の間氏は同じく三卷續の小說八種とナポレオン傳を著しその中一種の原稿料一万磅ありしと傳ふ又傳ふ一千八百二十五年十一月より一千八百二十七年七月まで二年に足らぬ間に二万六千磅の收得ありしとさればスコットの文筆に依ッて得たる金額は恐らく文人中誰一人及ぶものなからん佛の大小說家ヂユーマーは其初作には一文の收得なきのみならず出版費の中に自ら十二磅の持だしをなしたり然し後作は大當りにて莫大の金を獲たりと云ふリツトン公の著作收得は八万磅ヂツケンスは小說を著し又た自ら公衆の前に講釋して餘程の利を得たり是も初作は至ッて不向にて其名を著せしはピツクウイツクの初號出版の後にありニコラス、ニツケルビーの出版後三年間毎年一万磅餘の收金ありしと或る書肆の主人は算せりサカレーは多く講釋に依りて利を得たりと云ふ其自ら傑作と認めしハルレー、リーンデンの稿すら暫くは買手を見出し能はざりし氏の一代の名作とも云はるゝヴハニテー、フエーアの如きも其初號に於ては世人の注意を惹く能はざりしジヨージ、エリオツトは隨分著書に依て儲けしと傳ふ其ロモラを物して凡そ一万磅餘を得又た其他の一書は二万磅餘の收益を彼に與へしとはよく人の知る所ろなり數月前死去せしウイルキー、コリンズは「アルマデール」の著

作料として五千磅を受取れり此額は一片の稿をもなさぬ中書肆と約束せし所なりと云ふ氏は「ノー、チーム」に依り同く五千磅を得たりと云ふビーコンスフィールド伯の初作數篇は人口に膾炙せず從つて其收得も少かりしが其コニングスビーを書著すや聲望一時に喧しく其より後の諸作も評判實によろしく彼是伯は小說作者として三万磅は得しあらんと云ふ詩人に就て近代テニソンほど世人の好評を博せし人はあらしテニソン卿詩作の收得今日まで二万三千磅程なり歷史家に至りてはマコレー卿を以て其最とすロングマン商會は純益金四分の三を著者に拂はんと云ふ約束を以て英國史の版元をなせしに出版後數日ならずして二万磅を卿に渡したりと云ふさても文人にも遇不遇のかく異ある者か。

○紐育市長の金言

元とは貧しき匹夫で、勉强と忠實とに由りて人に用ひられ、遂にニウヨークの市長にあつたスチフン、プライス君は、先頃不幸にして難船の爲に沒せられたです、其死骸を見出して懷中を吟味した所ろ、左の金言を印刷した紙がありまして、日々之を讀まれたと見へて大層に古くなつて居た相です、

好き友を持つか否らずば友なくしてあれ。

決して怠ると勿れ。

汝ぢの兩手を用ひざるときは汝ぢの心を養ふべし。

常に眞實を話すやうにし、且つ約束を少くすべし。

汝ぢが約束したるとを仕遂る迄生存ふるの覺悟すべし。

秘密は秘密として固く保つべし。

人に話しする時は其顏を見るべし。

性質の良きが最上なりと知るべし。

汝ぢの性質は只だ汝ぢ自身の行ひに由りて害せらる耳他人の傷つけ得るものにあらず。

たとひ人汝ぢを毀るとも他人之を信ぜざる程に消かれ。

決して酒を飲む勿れ。

不幸ありしときの外は汝ぢの入金にて生計せよ。

床に入りしとき一日の行爲を三省せよ。

榮へんとを祈らば富む爲に急ぐと勿れ。

小き確かある所得は心を滿足せしめ安んぜしむ。

山師風の事を爲す可らず。

反對し得ぬと恐れて惡しきに誘はるゝ勿れ。

金は手に入りし后あらでは使ふ可らず。

返濟の法確かならねば借財す可らず。

妻を支へ得ずんば婚姻する勿れ。
人の悪しきを言ふ勿れ。
先づ正しくして而して后ち温厚なれ。
一週三回以上此等の金言を復誦すへし。

○着物の色合　　むらさき

西洋の婦人は理屈によりて洒落れ日本の婦人は無暗にめかします、十七八の令嬢が文金の高髷に金糸の房々したるを掛け顔は真面であつて極くじみなそしてくすみきつた袖の小い鼠の模様ものに紫縮緬の巾の狭ひ帯をしめさせ日利下駄でカラコロ〳〵歩かせたなら誰が見ても適當の御作りとは申されまじ、やはり年は年相應に御身分は御身分丈けによりその釣合を選ぶ事が肝要です、それ故に御婦人はよく理屈を考へてお作りを遊ばさないといけません西洋の婦人が容貌にもブロンドとブルチツトと云ふ二つがありますブロンドと申すは金色の頭髪に雪の如き顔色でそして青ふとした眼を持て居る美人の事でブルチツトと申すのは顔色の焼け色したる女子の事です此ブロンドと云ふ色白き人は日本の鶯茶のようあ着物を身に付て居りますしさなくば燃え立つ計りの眞紅の上着などを着します色黒き人は矢張り着物も黒づんだものを用ひ帽子なども餘りはでなものは用ひません、このように目立つ處は色合で工夫をすれば随分かくす事も出來また引立ようにする事も出來るのです、もしも顔色の青白い方であれば時色の半襟や水淺黄の衣服などがよいのです、色の白い方は可成分明とした色がよいので黒ちりめんの上着などはかへつてよう似合ものです。

面色の赤みを帯びた方は茶の色がうつり、赤みを帯びて地の白い方は黄八丈などが似合ひますし黒い方は矢張り鼠がよいようです。帯の色と衣物の色と下着と半襟等は可成其色のかはつた方がよいのです、けれどもそのとり合せは成丈け顔に近き半襟のようなものから氣を附て行かないといけません一寸としても如源の黒繻子と茶博多の腹合せは結構ですが〆た時にも葡萄鼠のパチンをしたり茶博多の方へ鉄色の帯上げでも〆て御覧んなさい價がずつと落てしまいます八九歳の時より十二三歳の令嬢は召物の色合がどうにでもよく出來ますが二十歳を越すと若く見る方はよいが年丈け見られる人は御召縮緬の棒縞も着られず有染の振袖もいけません世の母親達は自分の娘の顔色から丈の高低などを考へてよく見える者を御求なさいさなくば高い金を拂て買た着物が何にもならぬ事

があります。

○學校醫の切要

學校醫と云ふものは至極大切なもので、是非それ〴〵に無くてならん、よし夫々にない迄もが、凡そ學校は生徒と云ふ人間を取扱ふ所ろであるのですから、万事醫者に相談したり又醫者の如き心得方を以て致さなければならぬのです、前日三宅醫學博士が學校醫の必要と云ふ事を述べられて、學校と云ふものは大抵左の七ヶ條を爲すものだと言はれた、

一 學校を建る前に、地所を撿査し、其高低乾燥濕氣の事、市場への遠近、製造場への距離、などを測り、學校の畫圖面を見、建築中時々巡視して吟味し、出來上りの上はストーブの置場所などを教へるのです。

二 教課時間の編製に相談し、毎期課業の變れる毎によく注意して衞生上の爲に時間割を作ること。

三 机の高さの撿査。

四 入校生徒の躰格撿査。

五 流行病の時、學校の開閉生徒の出入に對して特に用心する事。

六 授業時間中見舞りて生徒の摸樣を見るので、特に手藝習字、唱歌、躰操などを仕て居る時に行て見たり、又た室内の明暗寒暖及び授業の有樣などに注意して果して規則通りに行ふて居るかを見るのです。

七 定期に生徒の躰格を撿査する事。

先づ此丈だとありますが、今の多くの學校には啻に學校醫が無いのみでなく、斯ることの爲に學校醫を大切とする理由すらも承知しないのが多くあります、願くは何處にも此の大切なることが分りそれ〴〵に醫者の注意を請ふやうに致したいと思ふです。

○愛情論（其二） しきたへ

常世に渡る不死の靈魂あれば同じ我身にありながら鳥部山の煙と消ゆる肉をばもてり、泥中に深く潜る蓮の根あれば南風に薰りゆかしき紅衣の粧を飾るべし、されば愛てふものも此に二つの性質を持てり、何ぞや、則ち德性上の愛と肉躰上の愛にこそ、そもこの愛の一つは永遠に人たるもの丶榮え行き增し進まんとの音づれを吾等に告る天の使か、見ませイデンの花園に告しらされし神の言葉を、汝は繁く榮ふべく擴がりて地の果てまでも滿ちぬべしと、妻戀ふ小男鹿の聲を聞て洛陽の天涯に夫を思ひ嵯峨野の奥に想夫戀を奏でたる人も、

いかに彼等が愛の根ざす所は何處ぞや、世にある操高き方々よ、眞正の愛に富まるゝ我が友よ、愛情を論ずるぞがうちに問わでかなわぬ事のあり、神聖なる夫婦の愛情はそも何ぞ一身同躰の盟ひは花燭皎々たる喜びの席に公言せり、彼れ友たりし時愛既に深かく彼れ相訪づるゝ時其愛麗わし、彼れ何が故に伉儷の式を擧げたるか、何ぞ同棲するを要するか、何の爲めに其友たるに於て滿足せざる自然は彼等を導けり我れは問はん自然に問はん、其答へは必ず聞くを得べきなり。幸福喜樂なるホーム、優美神聖のホーム、げに讃む可き爽快のホーム、溫和なる妻、勤勉なる夫、從順なる童、茫漠たる沙漠中の花よ、嗚呼雪霜中の梅よ、然れども彼等其友たりし時に余は此の美なるホームを見ざりき、彼れ相訪づるゝ時我其夫妻を見ず、彼等其相逢ふや忽ち花咲けり、彼等其相結ぶや香南風に薰ず、問わん何が故に然るぞ、泥中に根あり、人は死す可きの肉を持てり蓋しこれ余が大膽に說かんとする肉の愛情また預つて力あるなり、イデンの昔にありし愛は如何に神聖なるよ、憶むかしをいまになすよしもがあ。

然らば根なくして花は咲かじ、躰なくば靈魂宿らじ德性の愛益す〳〵其光りを顯はし歡樂の家庭へ行くも、天然の法則に管轄せれらつゝ行にこそ夫婦の愛は恥かわしきものにあらじ戀する心は恥じらふものには非ず、將さに敬す可く尊ぶ可きなり、忌わしや神聖の氣なく汚れたる愛情、曲れり過てる戀ぞ恥かしゝ。

○盛り？衰り？

雲峯子

今日の文學は盛なりと云ふべきか人あり曰く今日は如何なる小冊子を著はしてもツマラナキ小說を書ても三百部位賣れざるなし實に今日は文學界の黃金時代なり我國今日の文學は其の極盛の時代なりと、今日は文學の衰へたる時なるか他に人あり曰く今日の文學者は著作を爲さん爲に著作するにあらで金を得ん爲めに著作を爲すなり古來眞誠の文學者多くは弊衣粗食赤貧洗ふが如き內にありて自ら甘んじ決して金衣玉食せん爲めに著作せし事あらず只心中に鬱勃する所のものを書き敢て之を世に賣らんとせざりき之に依て見れば今日は文學極衰の時代なりと、盛？我得て之を知らざる也衰？我得て之を知らざるなり只知る人心の同しからざる恰も其面の如きを只夫れ心、同じからざるが故に其着眼する處異なるなり一枚の帋も兩面より見れば同からざるの譬、僅に百里を隔てゝも難波の葦は伊勢の濱荻とやら、見る人に依て異り所に從て變る

世の習ひ今日の文學を見て一ハ盛と云ひ他ハ衰と云ふも強ち無理とハ云ふ可からず然るにても余が考も多少述べまく欲すれど餘り長文に渉るを以てそは次の號に讓らん。

小說

○イナック、アーデン物語（二）　テニソン著　柔女譯

イナックは沈着で、信仰の厚い人ではありましたが爲す事もなく安閑と床に着てゐる間頻りに疑惑と憂愁の暗鬼に心を惱まされて子供は衰れにも其日暮らしに落ぶれて寵愛の妻は乞食と迄なり果てる未來を現に見るが如くに想像しましたがそういふ時は「此身は如何成り行も妻子のみは何卒救ひ玉われ」と祈願をこらしました、かく祈つて居る間に元とイナックが遣われた船長で、イナックの心底を見拔て信用してゐた人が不運に陷つた有樣を傳へ聞て見舞に來ました、そうしてイナックに相談をかけました、自分の船が何れ數週間の中に支那へ向けて出帆する所が、水夫長が一人不足してゐる、付ては貴樣行く氣はないかとの談し聞くイナックは心を籠めた祈願が叶ふたと思ふては少しも猶豫せず悦んで承知しました。

さてこふなつて見ると、不運と思ふたことは暫し太陽の光明をかくす雲切の樣に見えて來ました、併また想ひ直さば自分の留守になつた跡の妻子はどふなろうと心配して來ました、そこでまたイナックはとやこふ計事を運らしましたが彼の漁船を賣拂ふといふより外に考も出ませんかつた、がまた船をいよ／＼賣るとなるとどふやら惜まれる樣で、此船の中で荒浪を凌ひだことが幾度だろうなど丶思ひまわしました、實にイナックが船の工合を知つてゐることは馬乘が其馬の工合を知り拔てると同じことでした、併しどふしても此船を賣つた代を資金に漁村に向そうな品物を仕入れ、エニイに商ひを始めさせ、歸るまで暮らしを立させて置ふと思ひつきました、自分はまた行先で商方をし、都合によつては一度と云わず、二度も三度も航海を試み、貯金して歸り、今のより大きい船を遣ふ樣になれば利益も隨つて充分にあり、暮らし向きに餘裕も出來てくれば器量よしの子供は皆な教育がされる、そうして家族團欒の樂敷日を送るとしようと、イナックはこふ心に決斷しました、そこで先づ家へ歸て見ると、まだ顏の色のわるい妻は此頃生れた脾弱な赤子に添乳して居りましたが、嬉敷聲を立て丶走寄細々した幼子を夫の手に渡ました、イナック

れ抱とつて親子の初對面に、手足を撫でゝ見たり、重さを試みたり、あやしたりしましたが、此日はまだ心に滿つる計事を妻に打開ける勇氣は出ませんかつた。

翌日始めて夫の志を聞くエニイは婚姻のかための指環をはめて此方始めて夫に反對しました、と云ふて決してクド〳〵と云さからひをするではなく、只涙ながらに「キット禍の本になるときまつてゐ升から、わたしや、子供を思ふて下さるならばこんど行のはどふぞ思とゞまつて」と夜る晝る言葉を盡し祈る樣にして頻りに賴みました、併しイナックは自分の爲ではなく、何も妻子の爲と思へば氣強く、妻の諫めも空にして哀れは催しながらも、志は曲げず終まで持さゝへて仕舞いました。

さてイナックはとう〳〵遣ひ慣れた漁船も賣り拂ひエニイの商ひする代物の仕入も爲しはてゝ、通りへ向た表ての坐敷へ商ひものをならべる棚、戶棚をこしらへることにかゝりまして、出發する前の日まで鎚鉋、鈇、振錐、鋸などの音たへ間なく、細軟な家居の震れ動くまで一日働くのを聞くエニイは自分の處刑場の出來るのを見聞する心地がいたしました、是を終ればイナックはまた狭い新店の棚、小棚へ商ひものを語めならべる奇麗さ、細やかさはトント木の枝に花をならべ、種實を籠める造化の手にも較べられる樣で、さて注意も充分行渡り、始めてひと息つき、かく終りまで妻子のために働ひたものが疲はてゝ二階にのぼり、翌朝まで熟睡いたしました。

イナックは至つてさえ〳〵し敷、大膽に出發の朝を迎へ、エニイの色々物案じするも、連れ添ふ妻の苦勞とおもへば格別さもなければ少しも苦みありませんかつた、併かし大膽で、信神の厚い丈に先づ膝づいて彼の奥妙にして、神聖な己れを忘るゝ愛情に滿されて「己れは如何になり行も、妻子には祝福を授け玉へ」と祈願し、さて妻にむかひ「エニイよ此度の船旅は神の惠で必ず一家幸福の基となるだろうとおもふから、おまへはどうぞ家の內を奇麗に温かにして、歸りを待つてゐておくれ、おまへが思ひ付かぬ中に歸つて來るから」と云つて側に寐てゐる赤子のつゞらを輕るくゆすりながら「そうして奇麗で細軟な此赤んぼうも弱い丈尙さら可愛さが增す樣だが今に膝へ乘せ、外國のはなしをして聞せて嬉しがらせる事があるだろうよ」、サア〳〵おまへも別れる前に氣をとり直して嬉敷顏を見せておくれ」と云つて慰めました。

此通り夫の未來を賴母敷そうに語るのを聞て、ニエイも聊か

望が起らあいでもなかつたのですが、イナックがさらに嚴肅あはなしに移り、船乘のならひとて、神の攝理とか、天に任せるとかいふ事を説敎めかして、質朴に説くのを聞くエニイハ耳に聞て耳に止らず、丁度水さしに清水を受させながらいつか水汲んでくれた戀人をおもふてハ、聞く耳もそらになり水のこぼれるもしらぬ里の乙女の樣でした、終に口を開てこふ云ました、「イナックさんあなたハお悧巧で物知りなあなたにわたしがこふ申さバおか敷樣ですが、わたしハけふあなたにお別れ申せバまたとあなたのお顔ハ見られあいと覺悟してゐ升よ」、「イヤおまへがおれを見なくとも、おれハ結搆おまへの顔ハ見るよ、アノテ、おれが乘る船ハ（いつ〱と日を云ひ）確かにこの港を通ふるから、そうしたら、おまへ望遠鏡を借りて置て、おれの顔を覗いて今案じたことを笑つて仕舞つておくれよ」といふハ云升たが、立つ間際にあつて「エニイよ、氣を輕く持のだよ、そして心を確かにしておいで、おれハどふでも行なくつちやならあいから、何でも子供を大事に、家の始末をよくし、おれの事ハ決して苦勞にするぢやない、若し苦勞になる事があつたら、其時こそ神さまに御依賴申すのだ、それほど確かな事ハないのだ、考へても見るが好、何處の果にもお出なさる神さまじやないか、たとひおれが海の果まで逃げて行つたとて、此神さまのお眼を忍ぶことハ出來ない譯、茫々とした大海だとて神さまの創造あされたもの、矢つ張り御支配うちでハないか。

いつてイナックハ立上り、萎れてゐる妻を自分の丈夫な腕に抱きしめ、何事かとビックリしてゐる子供に接吻しましたが彼の赤子ハ夕部發熱で、むづかつたあと、すや〱寐入つてゐるのを、エニイがおこそうとしました、イナックはわざと推止め、「イヤ起さずに寐かして置くが好、無心の赤子がどふしてけふのことなど覺えてゐるものか」と云つて寐てゐるまゝ接吻しましたが、エニイハ我子の前髮のちゞれ毛を一と房剪み切つて、夫に渡しました、イナックハ終るまで身を離さず、之を持つて居りましたそうです、さて今ハ忙がわ敷包みを取り上げ、跡見返へりながら立去りました。

寄書

○殖產慈善家片岡鯉壽の傳

尾崎濱之助

一、性質及事業

片岡鯉壽は、寛政五年但馬國七味郡某村に生る、父を今井某と謂ふ、天資英敏温和にして、慈善愛隣の心に深く、頗る婦徳あり、文化七年々十八にして、同國養父郡森村の長片岡宜周に嫁し、四男四女を生む、文政五年々三十にして、夫宜周を喪ふ、嗚咽歔欷、毀瘠殆んど性を滅す、又連りに三男四女を喪ふ、號泣愛慕して措かず、後諭つて曰く――死するものは復た追ふべからず、家業を保つに如かず――と、獨り五才の兒壽左衛門を撫育す、姑痰癖を患ふ、鯉壽孝養怠らず、仰いで慈姑に奉するに、歡を竭し敬を致し、俯して愛兒に誨ふるに、化導周悉す、順教恰も一日の如し、家業より富み、寡居能く之れを保持して、其の產を墜さず、天保年間凶荒にして、野に餓莩あり、鯉壽深く之れを傷み、米五百石を施し、村民の食を乞ふ者を救ふ、事聞し幕府之れを褒賞す。

是より先き、宜周多く杉樹を栽培せんと欲し、而して未だ其培養法を得ずして歿す、鯉壽其の遺志を繼ぎ、多く杉樹を栽へ、培養其の宜しきを得て、杉樹益生長し、鬱然として巨林となる。

鯉壽平素人に語つて曰く――家を富さんと欲せば、須からく殖產を努めざるべからず――と、宜なるかな言や。

二、死去及餘榮

明治五年鯉壽疾を以て歿す、時に年八十、向きに賑救を蒙むる、村民惜悼して已ます、今に至りて、香花を其の墓に供するもの太だ衆し、明治十四年官山林共進會を開く、壽左衛門因て亡母の栽培する所の、杉木を其會場に出す、農商務卿感賞して、銀杯一個を賜ふ、又同國協和會員牧田探源小林近安君等、其善行を錄して、諸れを全會に出す、會員皆な感嘆して已ます、其會長長崎孚君傳辭を作りて以て、之れを贈ると云ふ。嘗て蒲生重章君は、之れが傳を作りて、近世偉人傳に編入し評して曰く――鯉壽は煢々の身を以て、啻に其の所天を辱めざるのみならず、遺業を擴張し、兒孫を撫育し、眞に古賢母に愧ぢず、何ぞ其の偉なるや、宜なる哉、官の賞賜を受け、又た天壽を得る此の如きなり――と、小野湖山翁も之れを評して曰く――古より仁者壽ならず、才子命なきもの多し、往々人をして、天道是か非かの歎を發せしむ、此傳載する所の鯉壽の如きは、謂ふ所の夫人皆な願事を得るものなる乎、一讀の際、以て人の善心を興起す可し、詢に貴むべきなり――と、又小山春山翁も之れを評して曰く――德行才幹を兼有するもの、之れを男子に求むるに亦た鮮し、況んや婦人に於てをや、今此の鯉壽庶操芳烈已に軌範となすに足る、之れに加ふるに貨殖の才あり、恩澤民に及ぶ、於戯偉なる矣、宜なる哉、其高壽を保ち、福報を受け、又此の佳傳あり、以て千万世不朽の壽を得る、天の善人を祐る厚い哉、――と、岡田所得氏も之を稱賛して曰く――遺業を擴張す、是の如きは大丈夫の難る所ろ――と、諸大家の佳評を得る斯の如し、何ぞ其の餘榮の　きや。

三、評論

余は嘗て森村を過ぎ、其杉樹の大且つ多きに驚けり、於戯鯉壽は、區々眇々たる婦女子の身を以て、能く家風を墨守し、遺產を擴張し、姑を孝養し、兒を撫育し、村民の飢餓を見ては、直ちに米石を擲て之れを救ひ、殖產の必要なるを諭りては、之れが事業に從事勉勵するが如きは、慈愛胸に溢れ、婦德人に絕し、純潔清廉、見識に長ずる君子なるにあらざるよりは、安んぞ能く斯くの如き事を爲すを得んや、今日日本の急務は殖產にあり、然るに何ぞや、正々堂々たる有爲の美髯男子にして、往々之れを度外視するものあり、嗚呼豈に鯉壽に愧るなからんや、此の傳を讀むもの、深く猛省する所あつて可なり。

今日の婦女子は、鯉壽の如く、果して其心事情高尙なるや否や、其の品行淸潔なるや否や、果して其の感情純白なるや否や、果して其の思想宏大なるや否や、果して其の擧動正當なるや否や、果して其の婦人の職分を竭すや否や、果して能く婦人の義務を全ふするや否や、吾人は敢て之れを識らず、否之れを識るも、言ふ能はず、言ふ能はざるに非らず、言ふことを欲せざるのみ。

吾人をして、請ふ少しく、之れを言はしめよ、今日の婦女子は、端に外貌の改良にして、白襟紋附の小袖を脫して、蜂腰の洋服を着し、島田髷を去りて、束髮に移り、女大學を擲して、英佛の會話を習ひ、小笠原流の禮式を擲つて、西洋の交際法を學び、三味線を變じて、風琴となし、手踊りを止めて、踏舞となすが如きに過ぎず、然り而して、其心事の改良に至ては、依然として何等の矯正もなきは、吾人は轉た痛歎に堪へず、吾人は唯だ之れを恐る、我國の婦女子は、淸淡質素なる伊國婦人に似ずして、奢侈浮薄なる佛國婦人に似たるものあるを、吾人は今日の婦女子をして、鯉壽の如く、人間の眞面目を知らしめ、其の目的を知らしめ、婦人は如何なるものなるか、如何なる責任を盡すべきかを知らしめ、之れを實踐せんことを望む。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

開書

〇禁酒下宿

貴誌百九十五號大和郡之助氏の問に拙者方の儀御掲載被下奉謝候就て尙一言仕候は拙亭は茅屋には候へども旅人宿も許可に相成居候事故斷然禁酒旅人宿及び下宿と門表相改候に付次號に御掲載被下度…牛込新小川町壹丁目赤心亭。

〇廢娼會

日本廢娼同盟會と東京廢娼會も遠からず出來るですが未だ出來ません可成く下ごしらへを廣く固く用意して居る最中ですから暫く御辛棒あり度願ひ升…社員。

〇天保の親父さん

(一八)前號の問に天保の親父さんは當時流行の小説は不德義なもの斗りと御見放しになりましたが成程昨年嵯峨之屋先生のくされ玉子、坎坷山人の濁世は左樣かも知れませんが其后は絶へて(探菊南新二先生等は別物にして)見受けません、で何々の書が不德義なものかを先づ御教示に預りたし天保の親父さん、時と塲合によりては著者にかはり説明も致し升、又世間の愛讀者のお説なりも御尋ね致します(濱荻寬子)

〇神田、麴町、麻布、芝、築地

(一九)前の地方で午后三時頃より自宅にて英語を教授する英米の婦人はありませんか…一女學生

●山内暖雪君　前號に載つた文章家有無のお問に對しては何れ文章論と云ふを其内に出しまして夫でお答へします

●S、M、S女　修辭學を學ぶには文典を餘程よく知て居られれば分からぬでしようか又た修辭學を學ぶに最も善き本は何ですかの問。文典のエティモロージー、チーソグラヒイー、シンタツキス、の大躰を御承知ならよひのです、しかし學ぶ時に獨學では少し困ることもありましよう本はクワツケンボスのレトリツクかパルデイーンの著書がよひでしよう

●同女　數學は大概プレーン、ゼオメトリー位でよいかと思ひます此の學問は自己の腦力を練り上げ文壇の激戰口頭の接爭には利益が多いのみならず事物の斷定も早くなり記臆力が強くなります、專門家としては深奥の數理を發見して社會を驚かす事もありましようが先づ實際に應用する事が出來ればよいかと思ひます。

材料新誌は一の書籍として出し度いと心懸て居ります。小兒が五六歳の時は段々智惠付て來ますからでしようその時におつかさんなり姉さんなりの注意が肝要です。

●田澤錦子樣　女子の職工學校へ入り給ふは自活の道を得る第一の法方でその中にも裁縫、刺繡の兩科は社會の需要が多いかのように思われますが陶器の畫も宜しひですお問の三科の中では先づ刺繡が第一でしやう

●S、M、S、女史　眞の朋友(True friend)とは如何なるものでしようかとの問。紙上にも度々論じた事がありますがつまりは心と心と結び付て居る人でしよう、信切らしひ人が決して朋友でなく、つきあひのよい人が朋友でなく、淚を流して吳れる人でなく共に笑つて吳れる人でもなく、無暗に中のよい人でなく、唯だ如何なる塲合にもよく己れを知て吳れ己れも知て居り信じて吳れ己れもよく信じたる人でしよう、しかし世の中には此の友達が少なく中にも女の方は前に申したいろ〳〵の點にのみ心をよせて友達だと御思召からヂキに氣まづい事などが出來てまいるのです眞の友達は外形の交際ではありません(Communion from hert to hert)です

●速記孃　厚生舘に初て速記した二女史の一人は大澤とよ子と申して今年十七神田區駿河臺北甲賀町十四番地に住居されます、今一人は中村たま子とて廿四才本鄕森川町一番地佐方乙雄氏方に同居されます

●一人の母氏　コンデンスミルクの水の交ぜ方は其乳を入れたカンに書いて有り升うが先づ十月位の子ならば乳二分目水一分目にして其后段々に水を少くするのです既に一年中にもなれば水を二分目にして乳を八分目になさい

●柳川一青年　青年の爲に讀むべき書は中村敬宇翁の西國立志篇及び松村介石君の靑年立志之礎が宜しひでしやう。朋友又は同級生を信者に導くの方法は先づ己の品行風采を淸美純潔にして口にて傳道するよりも行うて見するが宜しひ、特に二人相伴つて山林海邊などに遊び天然の美を共に觀て感發するとき人生の眞相に付きて靜かに話し合ふやうにするが第一です總じて議論的では無効です

●美作の竹女　チリレンゲとは散蓮花に似た汁をすくふ小き器です。パンダ子なも牛乳をも用ゐず田舍にて食パンを製するの法は饅頭の種を小麥の中へ入れて玉子燒をこしらへる鍋で燒ても出來ますし亦た酒と少しの鹽と重炭酸曹逹とをまぜて用ひても出來ます

●岩國本町の吉野さき子　廢娼論を確證する倫理の事は本號より載せます姦淫論にて略は御承知を願ひ升、其上又たお問あらば答へます

通信問答

通信女學は十日發兌の筈で原稿は去年末から秀英舍の方へ廻した程の始末ですが官省の屆願が一月のとで意外に日數が掛りましたのと秀英舍が年頭と普請中で意外に植字に手間取りまして一號早々延刊いたし申わけがありません次號よりは無論左樣な事はありませんから御容赦を願ひ升。

時事

○女學者と政黨

固有名詞あるものは普通名詞を有せず、一と度び投票したるものは最早投票權を持たず、今の政黨員と云ふものは既に一黨に併したるなり、既に一黨に併するときは他の諸黨に對して敵位に立たざる可からず、既に敵位に立つて國民全躰を融睦和樂せしめんとするは甚はだ難し、之を以て美術者、教育者、勸業家、宗教家、社會改良家、一言するに凡そ女學的の人士たらんものは惣じて政黨に加入するを不可とす、苟くも女學的の事業を爲さんと欲するものにして倘ほ政黨に併する如き者あらば之れ未だ其事業の神聖なるとを自覺せざる者也。

○女學的政黨

中外電報は中嶋信行氏の運動と題し、群馬縣に於ける公義會、東京市に於ける爲誰館、西京に於ける交話會等を一貫し、和田彥四郎、新井毫等の人々を伴つて、新に一の無名政黨を組織し、專ら社會の裏面に働き、殖產教育衞生等專ら民力を培養するの道を講じ兼ては又國會議員に適當なる同主義の人物を撰擧し或は國會に不平を抱きて議員の自由を妨ぐるが如き暴民の出る時之を防禦するの策を講ずる等の事に力を盡さんとするの主旨なる由、果して然らば寧ろ是一政黨にあらずして政黨中の勸和黨の如し、之を政治社會の女性と云つて可ならん、故に吾人は女學上其起るとを祝せざる可からず。

○黨派哲解

儒道に數派あり、基督教會中亦幾多の宗派なきとを得ず、たとひ異見ありて新派を立るに非ずとするも、若し人の異見を正さんとして起るときは亦た一新派ならざるを得ず、嗚呼人思慮あれば則ち政黨も學派も宗派も遂に免る可らざるの結果か、但だ然らば此等の人士をして成るべく識量をして大ならしめんとを祈るのみ。

○日本軍樂譜

人の腸を躍らせ聽くものをして奮然起り立たしむるものは軍樂あり、何如なる遁世家も、若し彼の壯大勇快なる軍樂の奏せらるゝを聞けば、目前月桂樹の冠、綠の戰勝門、万馬千軍の列行を幻視して將佐凱旋の愉快を慕わぬはあらざるべし、日本從來の軍樂は或は英風に倚り或は佛式に則とり專ぱら外國の譜を用ひたるに人を感動すると倘如此し、若し日本人固有の大和魂しひに訴へ犧牲潔白の武士情を動かすの日本軍樂譜調製せらるゝあらば、吾人をして感歎せしむると一層に深かるべし

然るに之を聞く四元軍樂隊長は目下現に之に着手したりと、吾人切に慶賀す。然れども彼の「春雨」「越後獅子」の如き纖細軟弱なるものは乙女をも泣かすに足らず、彼の「君が代」と云へども安ぞゴット、ブレッス、アワー、クインの類の雄壯だに及んや、人苟も日本軍樂譜を調ふと云はゞ、大日本の美魂忠膽に感應する如きものを出せ、浮れたる輕やかあるメソ〳〵としたるものは吾人が新に求る所の樂譜には非ず。

○櫻樹森々鳥空啼

重野博士が兒島高德論に關し激するものか、詩人佐田白茅氏亦左の近作あり、

過作州院莊有感　　白　茅

滿腹奇節動古今。聞風蹶起幾英豪。想君微行白枝夜。義氣衝天鋭於刀。近有儒家好事癖。漫唱無兒島高德。靈魂在天天帝知。腐儒妄信何得藪。我來吊古鶴城西。櫻樹森々鳥空啼。

○三大不思議

三大不思議は、國粹論者の存娼論、教育社會の存娼論、佛教社會の非廢娼論なり、彼等諸君は之を以て國粹とし、慈悲とし、勸懲となすか、然らずんば之を以て國粹、慈悲、勸懲等を進むるの具となすか。

○年始狀を返却す

吾人は今の都人士が年頭に近縣旅行するをすら無情なりと云へり、然るに愛媛縣下の政黨員は改進と大同と激爭いよ〳〵殷しく、其或ものは反對黨より送り來れる年始狀を返却したりと、局量の狹き茲に至る、歎泣するとも足らず。

○廢妓政黨員を招く

更に驚くべきは、富山縣の改進自由兩派も亦いよ〳〵喧嘩を爲し、其列妓樓の娼妓藝妓迄にも及しと見え、東雲樓の勝吉、松月樓の八重、平安樓の小三、以下十數名は、富山日報若は北陸公論の紙上に於て樣々の廣告を爲し、中には、

……本年は國會開設の當年にもあり從つていろ〳〵の御心勞も相出來候とゆゑ御うさ晴しかた〴〵御登樓もかんじんと存じ候間舊年に倍して御贔負の程……と廣告せり。

彼等が如此く廣告するは議論の外也、抑そも嚴正なる新聞紙たらんもの果して如此き廣告を揭載すべきか、第二、同地方の政黨員たるもの如此き廣告の出るに際して憤ふるなきか、彼等は云へり舊年に倍してと、舊年富山縣の政黨員は彼等の慰さめを受けて初めて能く政治論を爲したる者乎。

○讀賣新聞の女史

讀賣新聞には何々女史の名頻りに現はれ來れり、其名は今年初見の名にして其實名に至りては讀賣新聞自身すら之を知らず、然れども皆な曙女史一派の女秀才にして女子にてあるとは極めて確かなりと聞けり、果して然らば其辭句の少し穩やかならぬもの多きにあらずや、特に初戀論など云ふに至りては西洋の女詩仙がラブを論ずるとは感想大ひなる懸隔あるにあらずや。

○女子と速記

女子と速記との事は既に數度び叫び催たり、本年よりは明治女學校に速記自由科を置き佃與二郎氏敎師となりて有志者に授業せらるゝ處ろ既に習業を申出しもの三十餘名ある由。又同佃氏は其自宅にて女子の速記專修者には無束修無月謝にて敎授せらるゝ由。速記彙報第十四册には桜嶋華子の勸告文あり外に女子に關する速記の報數件あり。

○小學校令

小學校令近々に改正あらんとし、濱尾專門學務局長、服部普通學務局長非常に勉强して取調べ居らるゝ由、小學敎育は國民敎育の根底にして同胞の賢愚强弱たるに至大の關係を有す若し敎育にして政府の管涉して益あるものあらば唯だ此の小學敎育のみ即ち此れあるべし、吾人は普ねく國民の地礎を高むるの切要を感じて政府が幾分か小學敎育に厚き世話を燒かれんとを希望す、但し其燒かるゝの度は從來よりも今すこし温和ならんとを希望して止ざるもの也。

○兩本願寺の收入

昨年中本派本願寺(京都)の賽錢函へ投じたる收入高は五千七百五十餘圓、歸敬式(御剃刀)料五千百七十五圓、志納金十二万餘圓、合計金十三万〇九百二十五圓、又大谷派本願寺の賽錢函收入高は五千二百三十餘圓、歸敬式料六千四百五十六圓、志納金十五万七千四百餘圓、合計金十六万九千〇八十六圓の由。

○元結、元に歸る

信州飯田は元結の産地にて以前は頗る繁昌せしに、斷髮の流行よりして大に衰微し製造元は破産して一昨年頃は僅に十余軒に減少したるに、昨年頃より各地方より注文又ゝ多くなり、昨今は二十四軒に増加し、日々製造に從事し居れど中々間に合はぬ程なるよし、其一元因は束髮衰退に由ると云ふものあれど實を知らず。

○酒造減ず

大坂の堺其他、兵庫の伊丹灘等に於ける酒造家は、本年こそ酒の賣高多からんと預想し、十分にまうける覺悟なりしが、去年來非常に米價上れど酒代の其割に騰らざるより、本年は例年よりも三分方を減じ、先づ七分高の醸を爲すべしと云へり。

○廢娼記事

京濱 東京にては去十一日午后牛込揚方町會堂に於て 狠、福井、巖本等の廢娼演說あり、翌十二日夜は本鄕會堂に於て丹羽昇三、巖本善治等の廢娼演說あり、昨十七日夜は横濱海岸會堂に於て、仲直之助、巖本善治等の廢娼大演說會あり、今夕は仲徒士町のメソヂスト會堂に於て同じく巖本の廢娼演說あるべし○右仲徒士町の教會に於ては婦人會青年會大に廢娼に熱心し金若干を義捐して巖本が廢娼說を印刷し廣く配布したり○去十日廢娼同盟會委員小島、伴、平野、巖本の四氏及び石島氏は(書狀によりて)明治女學校に於て會議し原案を造れり近々再たび總會あるべし。

三島 去る七日巖本善治を聘して開きたる三島の廢娼演說會は聽衆三百餘名にして皆な謹聽喝采したり、會散后津田仙君と巖本とは同地妓樓の取締清水樓主人に面して廢娼の事を說きたるに同主人多年轉業を心掛居りし由にて之を大賛成し今年中には是非業を止むべしと言ひ居りたり、因に云ふ同地戸數千六百戸にて妓樓十四軒娼妓二十二人あり。

八王子 青木勇二郎氏は知事に向つて廢娼の建議を爲し且つ同地に於て廢娼運動を爲さんとして計畫中なり。

神戸 去三日神戸、多聞、兵庫、和友、關西學院の五青年會會議し、兵庫縣廢娼同盟會定憲三章を造り、即坐に五十二人の同意發起連名ありたり。

岩國 山口縣岩國に防長廢娼同盟會起り、去一月一日發會式を爲せり。

岐阜 岐阜の廢娼論者は其機關として廢娼會雜誌を發行せんとし、近日第一號を出版すべし。

前橋 上毛青年聯合會建白書捧呈委員渡邊金二郎、石島良三郎の二氏は全國の廢娼の儀を元老院へ建白する爲め去る十一日三千二百七名の惣代として上京したり去る六日に開きたる上毛青年會聯合會の廢娼大懇親會には八十五名の出席あり、種々の報告の后ち、廢娼善后の策取調の爲め委員五名を擧げ三月の聯合に呈出する事、近縣に廢娼遊說員を出すとを三月迄猶豫する事、日本廢娼同盟に加る事、青年聯合會中衰微せし會は徳義上他の會にて之を醒興すべき事、等を議決し、第一項の委員を橋本文平、森川抱次、高島房次、井上夏六、塚越芳太郎の五氏とし別に玉村の町田寬夫、板鼻の福田愛一郎兩氏を相談人とすると決したり。

久留米 久留米に於ては此際新に妓樓を設けんとするの議市會に出でたれば同地の青年縱横會員等が大に反對運動したるにもよるか遂に否決せられたり。

奈良 奈良縣下の奈良、郡山、田原本、高田、五條等の信徒相合し大に廢娼運動を計畫す。又百濟に於ては岡橋清四郎氏日々近方に遊說せらる。

大和 去年末五條に於て妓樓を新設せんとする者あり有志者大に痛愛し之に反對したるが縣知事は遂に其願書を却下し新設の事中止す、去三日大和全國の廢娼有志者會合し大和廢娼會を設け規約七條を定め且つ第一回廢娼大演說會を催したり

○廢娼論料

●**廢業娼妓** 本年五月三十日を期し東京娼妓の年明け廢業者は一時に四百五十餘名あるよし是は先年規則改正より滿三年にあたる故なれば他にも定めて廢業者多くあるべしといふ。

●**遊廓の統計** 其筋てに參考に供する事ありて元日より三日間吉原客數及揚金高を取調べし處大中小店百二十戸に對し登樓客一万三千九百二十八人此揚代金一万三千二百三十七圓七十五錢五厘なりと云ふ。

女報

○**高等女學校** 築地小田原町なる同校は現今生徒募集中なるが生徒の望により卒業の上尋常師範學校卒業の女子と同一なる資格を與ふる由にて入學志願者は中々に多く既に豫定の數を超過したりと。

○**音樂會の催し** 青木外務大臣夫人及獨逸公使夫人等の發起にて來る二十六日内外貴婦人等を會して歐洲音樂會を催さんと目下會場等の協議中なりと云ふ。

○**レース製造卒業者** 京橋區日吉町なる東京府レース教場にて舊冬試驗を行ひ此の程全科卒業の證書を得られたるは靑山やい子、市とも子、中野ぬい子、宮田わか子、小倉ちう子、山本みつ子、吉田かれ子の七名なりと。

○**共立女子職業學校** にては去る八日始業せしが同日より第三內國勸業博覽會へ陳列する物品の製造に着手したりと。

○**婦人教會** にては去る六日麻布善福寺に於て其發會式を執行し貴婦人數十名參集し佐治實然師等の演說等もありし由。

○**女子技藝學校** 伊太利國に居られたる由の淸原英之助氏は芝新堀町四十番地に題名の學校を設け來月より開校。

○**豊田女史根本正氏** 德川伊太利公使夫人に隨ひ同國に遊び且つ女子教育取調の命を蒙りたる豊田芙雄女史及び禁酒事業に付きて婦人矯風會とウイラード女史との間に始終周旋せられたる根本正氏は共に去十二日歸朝したり。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

○女子談話會　と云ふもの淺草松葉町十八番地に起る。

○女官面會日　宮中にては毎木曜日を面會日とし當日は勅任相當の女官出でゝ皇后宮陛下に代り貴婦人方に面會せられ皇族大臣の御息所夫人へは皇后宮陛下自ら謁見を許さる。

○珍しき婚姻　斯る事は余り書かぬなれど余り珍しき故認め置べし、三重縣朝明郡齋洲原大字岡田一色に魚渡世をする鈴文次と云ふは十八の少年なるが此程員辨郡より七村ハル子と云ふ本年五十二の老女と正婚したるよし。

○つぼみ　同志社女學校、神戸英和女學校、梅花女學校、山陽英和女學校の四校合併して發兌する女文會の雜誌はつぼみと稱し本月下旬に第一號を出すよし。

○内外貴夫人面接日　各大臣中の夫人中西郷、土方、後藤、青木の四夫人は水曜日を面接日とし佛國公使夫人は木曜日英米兩公使の夫人は火曜日露國公使の夫人は土曜日を面接日と定められたる由。

新　誌

○改進自由、報知新報

板垣伯の愛國公黨論によりて、東京新報は改進黨正に愛國公黨に入るべしと論じ報知新聞は自由黨亦た一の宛然たる改進黨となれりと云へり、二新聞の言東西にして相距る千里なりと云へるも其見る所ろ歸ろ同じきものあり、即はち改進黨は愛國公黨の紹介によりて自由黨に接近すべしとの事是なり、改進黨の貴族的に流るゝも宜しからず、自由黨の粗暴風に流るも賴母しからず、二者の相近づくは兩黨の正鵠に近づくの兆にして緩急の二過を軟らむるに近し、吾人之を賀せざる可らず。

○政治社會を何如んせん

時事翁は例の如く政熱冷却劑を調合し、役員は可成く月給官位を卑くして他人の羨望を減ずべしと云ふ、併ながら尤もの議論にして吾人も常に同意する所ろなり、但し政熱を冷却する更に容易なる一法は、新聞紙面の記事論說を政事の事のみに偏多ならしめず、矢張り農工商美術文學女學等の事をも同じき割に論話せしむるにあるべし、世間に於ける政府は二つあり一は現政府にて他は輿論なり、而して輿論を代表し表章し又時として製造するの所ろ實に新聞紙なるを以て、新聞紙に於て政事以外の事を重んずるは即はち政熱を冷やすの良策となるべし、而して新聞紙に如此き記事を多からしむるの策は、今の新聞内閣に變更を强ずか、記者輩に時々巡廻演行せしむるか、別に普通敎育ある記者を養成發賣するに在り。

○政界の三隱居

民友氏得意の批評的冷刻文久し振りにて其第七十號に出でたり、大隈伯に對するの贊辭頗ぶる温かにして、伊藤伯に對するの甚ぜりふ極めて冷やかなりと云へども公平に直言するときは誠に如此く言ふの外なけん、若し夫れ井上伯に對するの評價に至つては伯の爲に惜み辨ずるの情余りありと云ふべし、末段井上伯の性質急激際に傾き易く、伊藤伯の性質保守派に傾き易く、大隈伯は其中間に居らんと云ふもの、實に能く三隱居の肺腑を穿ちたるのみならず、實に三伯今后の運動を識するものと云ふべし。

○井上哲二郎氏の辨論

井上哲二郎氏の辨論は第一に六合雜誌の誠堂居士に答へ、第二は學券雜誌に怒軒居士に答へたり、吾人其の二つ作らを記讀せり、此頃ろ久々にて國其の友諸上に其の内地雜居論の批評に答へられたるを見るに、元氣依然として衰へず相變らず尊大自信の風に富まるゝと見へたり、蓋し日本人が幹力上歐米人に劣るとは、未だ確定せざる種々の學說を引く迄に及ばず、本邦に在留する西洋人と角力を取りて見ても直ちに分るとなり、但だ條約改正論に對する一つの問題は此西洋人が幾千ばかり日本に渡來すべきやと云ふと是也、何如に强力の西洋人なりとも三々五々滔々たる日本人民中に侵入するに於ては何の恐るべきとかあらん、特に彼等外國人は日本に來りては日本人よりも弱くなるもの也、實際歷々として居留外國人にあり、彼等渡來后數年ならずして漸やく色衰ろへ絲疲勞す、七八年にして一と度び大ひに病まざるものは殆んど少きにあらずや、況んや條約改正后其の大水の如くに注入するなどの憂ひは殆んど夢の如くなるをや、學士決して心配せらるゝに及ばず。

週　報

○官令　八日朝鮮國との通漁規則を公布せらる

○政治　七日各大臣ば内閣に參集して會議を開かれたり●外務書記官赤羽四郎氏七日を以て外務大臣秘書官に任ぜらる●八日鳩山外務省取調局長非職を命ぜらる●九日陸軍省にては各局長を會して議事を開きたり●十日内閣會議に西鄕、山田、大山、榎本、青木、岩村の六大臣は參集せり●遞信大臣は同省構内官舍に於て去る十日新年宴會を開きたり●十二日横濱に政談演說會の催しあり●十日鳩山和夫氏は願に依て本官を免ぜらる

○外交　七日獨逸太皇太后崩御●九日我が同駐劄の各國公使は日耳曼太皇太后崩御に付き英國公使館を弔問せり●九日佛國公使館に抹茶會の催しあり●伊國特命全權公使德川侯爵及夫人は十二日横濱入港の佛船カレドニアン號にて歸朝せり

○會社　十日東京米商會所にては定期株主總會を開けり●日本郵船會社は十五日株主定式總會を開けり

○敎育　九日文部省に於て小學令取調會議を開きたり●八日横濱尾上町なる横濱學舘は開舘式を擧行せり

○文學　十一日德富猪一郎氏の周旋にて文學者を万代軒に集めて文學會の宴會を開けり

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

廣告

毎月一回
發刊
第二金曜

基督教青年

第五號

明治廿三年一月十日發兌

定價（郵稅共）
一冊前金 五錢
六冊同 廿七錢
十二冊同 五十錢
廿四冊同 一圓

廣告料
一行五號活字廿三字詰
一回 前金 五錢

見本御入用の御方ハ郵劵五錢を送らるべし

●基督敎青年○明治廿三年を歡迎す（松浦政泰）◎明治廿三年の基督教徒●論說○社會公德上の制裁（岡龍吉）○壯士論（楠瀬一貫）○基督教徒青年會（シドニーキュリキ述、神戸SI生筆記）○神戸日本公教青年會設立ノ趣意ヲ讀ミ併テ基督教青年諸君ニ望ム（佐畑虎熊）●學海○基督教證據論（MM生譯述）●史傳○ヘンリー、マーチン傳（三畝園大）●雜錄○柴門辭（隱堂居士評解）○はきよせ（多嘉屋主）○賦詩（二首）●寄書○青年の發行に就て（在東京某）●時評○政海波高歲窮時○明治廿三年祝典と兇變○廢娼尙早論○社會の良心○美人を裸にせよ○宗敎と政黨○一派を合せんとして三派を生ず○一致組合敎會合併の相談落着如何○基督敎の門戶を堅せよ○つぼみ○彼れも亦●記事數件◎特別附錄○內外基督敎諸名士の感味聖語數十節◉附錄●說敎○測るべからざる愛（米國ムーデ氏述、日本三畝園夫譯）○敎會報知十數件●廣告

發行所 大阪西區土佐堀三丁目福音社內 基督教青年同盟社

今般本校ニ於テ新タニ幼年男子部ヲ設ケ良師ヲ聘シ明治學院及小學校ニ入ルノ豫備科ヲ敎授シ併セテ左ノ五科ハ殊更ニ發達ヲ期シテ丁寧ニ授業セントス有志ノ諸君ハ愛兒ヲ托セラレンコトヲ希望ス

○專業科目
○漢學 作文 講義 辨書 ○算術 珠算 筆算
○書法 土肥樵石書法 ○英學 讀方 翻譯 會話
○速記法 單畧符合 錬習法

○學資
○束脩金壹圓 ○月謝金壹圓 ○月俸金三圓

○就學年齡
○滿八年以上十三年以下通學寄宿生共入學ヲ許ス

小石川區小日向臺町一丁目五番地 長榮女學校內
幼年男子部

標準第壹號出切り
第貳號廿五日發兌

見本御入用及御注文の分は第貳號より差上可申候間左樣御承知可被下候

東京麴町區富士見町二丁目一番地 標準社

船越鼎太郎君著
產婦小兒 攝生法（新著） 一冊十八錢郵稅四錢

右は產婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き樣認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を鑑み專ら從今の養生法其弊を盡さゞることを敎へたり故に月經の心得より、姙娠したるか否やを知ること、出產の期日を知る法、姙娠中の養生法、產後の養生法、赤子のとりあつかひ、乳を飲ます間の養生法、母の乳を用ひずして子供を育つる法等ことごとく信切に敎へたり世の母たらん人は何卒一冊を座右に置きて最愛の生子を誤りて取扱ひ玉ふやうのことなからんを希ふ

麴町區富士見町二丁目一番地 女學雜誌社

明治十二年創立

東京經濟雜誌

明治廿三年一月十一日發兌　第五百參號目錄

官令數件○社說●明治廿三年●政事黨派の團結愈〻急なり●憲法第六十七條の國會第一の爭點とならんことを懼る○論說●文學士井上哲二郎氏著內地雜居論を讀む●今後の論鋒は大に其趣を異にせざる可らず○寄書●新年の所感○雜錄●皇壽万歲皇國万々歲●明治廿三年來りぬ●沈思せよ我國民●山縣總理大臣●井上伯●伊藤伯●大隈伯●板垣伯愛國公黨論●青木外務大臣既に新條約案を作れる乎●地方官の更迭●舊知事歸る●新知事を送る●山縣伯の警察政畧及び私設鐵道意見●北垣京都府知事の壯士案●總武鐵道會社免許狀を受く●第十一回布哇國出稼人出發●兩毛鐵道會社の開業式●歲晚及び歲始の景况●矢野龍溪先生半肩の重荷を下ろす●其他數件○銀行及商業の景況數件○定價●一冊現金七錢●十冊前金六十五錢●半ヶ年分前金壹圓五十六錢●壹年分前金貳圓八拾六錢●市外は郵稅一冊に付五厘增

田口卯吉は近年種々の事業に關係致居候處本年より專ら本誌に從事致候且編輯員一同一層勉勵致候間舊に倍し御愛顧を請ふ

東京京橋區彌左衛門町七番地

發行所　經濟雜誌社

●問　一年の計は春に在りと云ひ升、此一年は如何しませう。答何よりも先づ少し學問を爲さつては如何です●問　學問は勿論したいのですが此としでは學校にも參られませず、獨りで稽古も出來ませぬから當惑し升。答ナンノあなた學校にも行かず教師もなくて能く學問が出來ます、其は六かしい秘傳でもありません先づ次を御覽なさい

通信女學發兌廣告

一年で女の心得にある學問を手易く教授し家に居て用事の暇ま〳〵に稽古の出來る樣に仕組たるものにて文章は誰にも讀める程にやさしく其上尙ほ分らぬ時は手紙にて質問の出來る樣に致し、每月一冊發兌し左の諸科目を教授す

家政學、作文法、和學、漢學、英學、万國史、日本歷史、算盤、理化學、生理學、動植學、歌詠方、圖入地理、英學

教師は醫學士三島通良、鈴木弘恭、木村祐吉、其他重もに明治女學校の教員諸君に委賴し專ら親切鄭寧を主意とす○一冊二百頁にて一年二千五百頁とあるべきにて女子一と通りの學問を悉とく教授し年末紙上試驗を行ひ及第する者には女學雜誌社通信女學部卒業證を寄す○一年の計は春に在去一ヶ年の徒らに過しことを思へば此一年是非とも心掛けて普通女學を修業する事肝要なり夫には一月最初の分より購讀せねば中途にて心付くとも既に遲し●一冊三十二錢にて全國郵稅なし半年分前金一圓八十錢同一年分三圓五十錢、女學雜誌と合せ購讀する者には各一割づゝ減ず○每月十日發兌○

麴町區富士見町二丁目　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

今般學年ヲ改正シ五年ト爲專ラ女子ニ適切ナル學科ヲ教授ス
一月八日始業各級共入學ヲ許ス志願者ハ至急申込アレ

頌榮女學校規則摘要

第一 本校ハ彝倫道德ヲ本トシ女子ニ適切ナル學術技藝ヲ教授シ專ラ優良淑雅ナル婦女ヲ養成スルヲ目的トス

第二 本校學術ハ五年ヲ經テ卒業シ得ルモノトス

第三 入學者ハ品行端正ニシテ尋常小學科卒業以上ノモノ若クハ之レニ該當スル學力ヲ有スル者トス

第四 毎學期試驗成蹟表ヲ製シ出席表ト共ニ生徒ノ父兄ニ送附ス可シ

第五 本校學費ハ束修壹圓月謝壹圓校費貳拾錢寄宿料三圓トス

第六 一學科若クハ數學科ヲ撰修スルモノヲ撰科トス撰科生ハ何時ニテモ試驗ヲ經テ全科ヲ修ムルヿヲ得

第七 學科課程ハ左ノ如シ

	一年級	二年級	三年級	四年級	五年級
倫理	道德上講話	仝	仝	仝	仝
和文		讀書 徒然草抜萃一冊 十六夜日記 讀本一 作文 消息文 文法口授	讀書 土佐日記 讀本一冊 竹取物語 讀本一冊 作文 短簡記事 語格詠歌	讀書 源氏物語 抜萃 作文 記事文 語格詠歌	讀書 源氏物語 抜萃 文法語格 作文 温習論説 文詠歌
漢文	國史覽要 書牘文	日本外史 書牘文	十八史略 蒙求 漢字交リ文	史記 文章記範 漢字交リ文	八大家文 孟子 漢字交リ文
英語	讀法會話 作文	讀法會話 書牘文	讀法會話 英文抜萃 作文	讀法歷史 英文抜萃 作文	文章類 傳記類 作文
譯讀	讀本一、二	讀本三、四 文法	讀本四、歷史 英文抜萃 文法	讀本五 歷史	文章類 傳記類
數學	分數小數 比例	比例 開平	開立求數 求積代數	代數 幾何	幾何 應用問題
地理歷史	日本地理	世界地理	日本歷史	萬國歷史	
理科			物理	動植物 人身生理	衛生 育兒法 生理
教育					教育論
家政			簿記	家政學 和、洋、女禮式	經濟大意
圖畫	自在畫	仝	自在畫 用器畫	毛筆畫	仝
手藝	日本裁縫 編物	仝	仝	日本裁縫 洋服裁縫	洋服裁縫
唱歌体操	唱歌 体操	仝	仝	仝	仝
茶禮琴	隨意	隨意	隨意	隨意	隨意

芝區白金猿町五拾三番地
頌榮女學校

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす每科受持の敎員孰れも熟達善良あり然して本校の敎授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所あり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

廣告

米國ノ婦人

大統領ハリソン將軍夫人肖像石版畫入洋裝無比美本正價三十錢郵稅四錢

目次

第一 体格と衣裳 ●第二 婦人の待遇
第三 男女の交際 ●第四 婚姻の手續
第五 家族の內幕

有樂堂主人マストルフファーツ田村直臣氏多年プリンストン大學に遊學し廣く米國婦人社交の眞相を探究して玆に絕大の艶筆を操り富樓那の快辯歐陽の妙文を酌み來りて米國婦人社會の胸內を解剖的に分析し前後左右より實情を寫し比々歐亞婦女の狀態と比較し是を是とし非を非とし男女交際の摸樣より結婚場裡に至る迄最も快括明斷に叙述したれば目之を見るが如く耳之を聞くが如く一笑一快の中に彼國の實想を明にするを得べし乞ふ大方の君子瀞に一讀の快を取り給はんことを

東京銀座十字屋本町金港堂通三丸善
春陽堂集成社〇大坂梅原四京大黒屋

有樂堂主人

國民の友第六十九號米國の婦人批評

米國婦人の狀態を種々なる點より觀察せる一[illegible]にして其文言文一致躰を用ゆ是れ此書の一機[illegible]所ならん且つ作者は婦人社會の敗德を匡すに[illegible]致したるが如くなれば世の錦木の立ながし朽[illegible]にの蜘蛛のふるまゐを喜ふ哀れ果敢なき鍛鐶[illegible]宜しく三讀[illegible]猛省すべきあり

基督教新聞第三百卅六號米國の婦人批評

本書は米國婦人の狀態をば體格と衣裝婦人の待遇男女の交際婚姻の手續家族の內幕の五章に分ち氏が例の如き流暢なる言文一致の筆を以て通俗を旨とし記述したるものにして喜笑愉快の內に讀み畢るの早きを覺へざる妙あり實に男女の交際又家族の良友と云ふべし

報知新聞第五千九十二號米國の婦人批評

男女交際の道を基督敎の道德に賴て純正潔白のものと爲さんが爲めに米國に行はるゝ男女交際の有樣と婚姻の風儀とを極めて平易懇篤に述べたるは本書なり全篇を五章に分ち婦人衣裝の事を始めとして男女待遇交際婚姻等の順序方法を叙し終りに米國人が家族の內幕を詳密に記載せり文章は通常の談話の如くにて婦女子にも分り易く事柄は高尙にして餘りに卑俗なる事鮮し說く所は皆著者の誠意實心より出で演ぶる所は多く其經驗實歷に係れり青年男女の爲めには斯くの如く親切にして利益多き書は蓋し鮮なかるべし吾人も甞て米國の有樣を目擊して其國の富强なるは其國人の家族內に靄然たる和氣の充溢して幸福愉快が人々の精神を喚起勃興せしむるに由來せりと觀念せし事あり今此書を讀で益々觀念の誤らざるを知る

東京市京橋區
銀座三丁目二番地

十字屋書肆

國語傳習所講義錄ノ廣告

神田區仲猿樂町十五番地
私立國語傳習所

豫テ諸新聞ニ廣告ノ如ク來ル廿五日ヨリ講義錄發行ス
入會金五拾錢月謝金貳拾錢每月二回講義錄ヲ送ル郵稅無料
非常ニ申込多キ故册數ノ準備モアレバ有志者ハ至急申込アレ

生徒募集廣告

本所是迄本科生を限り傳習致し居候處今回歐米各國の衣服裁縫に熟練の敎師を聘し衆人の便利を量り更に速成科を追加し裁方縫方共懇篤に（和洋とも）敎授す有志の者は規則一覽の上入學あらんとを

本鄉區東竹町
二十五番地

渡邊洋服裁縫傳習所

交詢案内

（催促する勿れ郵劵十錢送れ委細に申來れ）

●雇ひたき方（甲）

二一	中働	年齡廿五才にして一ト通り裁縫の出來るものを一圓以上の給金にて雇ひ度處あり
二五	召使	十二才以上の小女にて實直なるものを給料一圓にて雇入度處あり

●雇はれたき方（乙）

二四	奉公	年齡廿二才にして一と通り裁縫もいたし氣輕の生れつきにて華族樣か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は壹圓以上に願ひたし
二五	裁縫	裁縫は重もに婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御內に敎師に雇れたし
二八	奉公	普通小學科卒業の者にて（年齡二十二才）產婆業を營まるゝ基督信徒の家に無給にて雇はれ餘暇に產婆術を學び度ものあり
二九	奉公	年齡十四歲にて基督敎信徒の家（可成は西洋人）に雇はれ度ものあり尤も普通食料小使仕着等一切持參致すに付き每日四五時間英語學の脩業致したし
三五	奉公	年齡十五才の高等小學卒業生にして餘暇に勉學の出來候御宅へ雇はれ度ものあり但し給料は望みなし

●喜びのめぐみ

召使　甲第二十四號は去る二日雇入と爲れり

> 注意社告
>
> 前金切の節は雜誌の封紙に朱印の半錢形を捺す、之によりて前金を廻送あれ、然らざれば一時發送を見合す。
>
> 代金を送らるゝには通運便又は郵便小爲替にて麹町郵便局へ當て御振込被下候樣奉願上候。

發兌

一月。	一日	十一日	十八日	廿五日	
二月。	一日	八日	十五日	廿二日	
三月。	一日	八日	十五日	廿二日	三十日

定價

一冊。六錢	郵稅。五厘	（但府内無郵稅）
十冊。五十八錢	郵稅。五錢	（同前）
半年分	一圓四十三錢	府外は　一圓五十六錢
一年分	二圓六十錢	府外は　二圓八十六錢

廣告

一行	一回	（廿七字詰）	前金拾錢
同	三回以上		一割引
同	六回以上		二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1.56 six month *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 1B. FUJIMICHO 2CHYOME, KOJIMACHI, Tôkyô, Japan

明治二十三年一月十七日印刷
明治二十三年一月十八日出版

發行所　東京麹町區富士見町二丁目一番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　東京麹町區富士見町二丁目一番地寄留　巖本善治

印刷人　東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留　森田豐

遞信省認可